

プーチン大統領、机にある本は何か語る

(スプートニク 2016 年 10 月 06 日 10:35)

© Sputnik/ Michael Klimentyev <https://goo.gl/sZJ0j3>

プーチン大統領は、自分の机の上にはいつもロシアの作家ミハイル・レールモントフの本があると語った。インテルファクス通信が報じた。

プーチン大統領は次のように語った。

「好きなものの中で、私の机の上には常にレールモントフがある。それは、何かを考え、気をそらしたり、そもそも違う世界にふけったりするためで、有益で、美しく、興味深い。」

プーチン大統領は全ロシアコンテスト「ロシア 1 年の教師—2016」の受賞者たちとの会談で、参加者の 1 人が、大統領はどのような本を読むのを好むかと質問したのに答えたのだ。

プーチン大統領はレールモントフの作品の 1 つ『祖国』をほぼ全て暗唱し、詩人レールモントフは勇敢で「国益と祖国のために命をささげる用意のあった」人物だったと強調した。

先に伝えられたところによると、プーチン大統領は選挙後初めて開かれた下院議会で演説し、ロシアの力について、これは豊かな天然資源や国防能力だけにとどまらず、国民が一致団結した中にもあると語った。

<http://sptnkne.ws/cvct>

アサド大統領、西側がシリアの勝利を恐れる理由を語る

(スプートニク 2016 年 10 月 06 日 12:45)

© AFP 2016/ Ho/Sana <https://goo.gl/YLw9m5>

シリアのアサド大統領は、なぜ西側がシリア政府の勝利を危惧しているのか語った。アサド大統領はまた、シリアの将来は世界の地図を変えると指摘した。

国営シリア・アラブ通信（SANA）はアサド大統領の次の言葉を報道した。

「シリアの勝利は自立的な発展という考えの世界的な普及につながり、それこそ西側が最も恐れていることだ。」

またアサド大統領は「シリアで起きることは世界の政治地図に反映される」と確信している。

先に伝えられたところによると、米国はシリア停戦に関するロシアとの2国間協力を停止すると、米 국무省のジョン・カービー報道官が声明した。

<http://sptnkne.ws/cvfs>

露外務省、シリアでの露米軍事衝突の危険性についての問いに答える

(スプートニク 2016 年 10 月 06 日 15:20)

© Sputnik/ Alexander Vilf <https://goo.gl/MxlPCE>

ロシア外務省のザハロワ公式報道官はシリアで露米両軍が衝突する危険性はあるかとの質問に答えた中で、両国の間には紛争防止に関する合意があることを指摘した。

ザハロワ報道官はロシア第1テレビに出演したなかで、例えば米軍がシリア軍を爆撃した際にロシアが対空ミサイルS-300を使ってこれを防衛するなど、シリアで直接的な軍事衝突が起きる危険性はどれほどあるかとの質問に答え、「我々は米国側との間に紛争を防止するしかるべき合意を結んでいる」と語った。

ザハロワ報道官はさらに、シリア正常化に関するロシアとの一切の対話を打ち切ると最初に宣言したのは米国側であることに注意を喚起した。

「それから2日経つと今度は変わって、最初の政治的正常化からの段階から米国は拒否はしていなかったといい、それからまた1日経つとまた別の話を展開させ、自分たちは打ち切っていない、この方向性でのロシアとの相互関係を一時停止しただけだと言う。」ザハロワ報道官はこう述べた。

<http://sptnkne.ws/cvfw>

ロシア、日本周辺の太平洋海域を網羅するパトロール師団を編成へ

(スプートニク 2016 年 10 月 06 日 18:07)

© Sputnik/ Anton Denisov <https://goo.gl/UVfWJo>

ロシア国防省では極東における新たな重爆撃機航空師団の編成が完了間近。同航空隊の課題は日本、ハワイ諸島、グアム諸島付近の太平洋海域のパトロールとなる。イズヴェスチヤ紙が状況に詳しい軍部筋からの情報として報じた。

重爆撃機航空隊には戦略爆撃機ツポレフ95MS、遠距離爆撃機ツポレフ22M3が入れられている。極東師団はロシア航空宇宙隊の重爆撃機師団としては2団目。なお前に伝えられたところによると、最大定員170人の「ボーイング737-800」が、2017年プログラム・チャーター期間中に、カムチャ

ツカー日本間を運行する。

<https://goo.gl/MMzkXt>

独立専門家ら、アレッポでの国連人道支援車列への攻撃を芝居と断じる（写真、動画）

（スプートニク 2016 年 10 月 06 日 18:09）

◎ REUTERS/ Ammar Abdullah <https://goo.gl/F9n044>

9 月 19 日の国連とシリア・アラブ赤新月社が共同で組織した人道支援車列への攻撃は「よく準備された芝居」である。シリアの支援の国際シリア支援グループ内の独立専門家らの予備調査結果より。

専門家らは、メディア報道にある写真や映像、また車列をフォローしていたロシアのドローンの記録を比較分析した。映像には「人道支援車列に隠れて移動する明らかに口径の大きな迫撃砲で照準を合わせている車」が見られるという。

動画 https://youtu.be/CeVsWk_00eA

9 月 19 日のレポートを見ればまさにこの場所で、過激派アル＝ヌスラ戦線がアレッポへの大攻勢を開始したことが分かる」という。また車列の損傷は空爆では起こりえないようなものであるという。狭い空間で爆発の衝撃波が走れば少なくともトラックや貨物ボックスが横転し、破片が付近の家の壁に食い込んだはずである。

◎ AFP 2016/ Omar haj kadour <https://goo.gl/i9fPzJ>

しかし写真を見るとシートが落ちたのみで、トラックからは段ボール箱も落ちなければタイヤが打ち抜かれることもなかった。空爆の結果できたと思われる漏斗状の穴も奇妙だという。「穴の中央から外へ物が拡散するのでなく、まるでブラックホールのように、むしろ集まっている。」

◎ REUTERS/ Ammar Abdullah <https://goo.gl/0CaA4h>

「この予備的な分析を要約すると、本件はよく準備された芝居もしくは偽の攻撃であるという結論が出るかもしれない」と報告書。調査グループに近い外交筋はスプートニクに対し、報告書はグループ内で閲覧され、参考のため米国の代表者らに提出されたが、彼らは「結論に同意しかねる立場を表明した」と語った。

<http://sptnkne.ws/cvhS>

日本のエキスパート、日ソ共同宣言を土台に平和条約締結を提言

(スプートニク 2016 年 10 月 06 日 17:55)

© AFP 2016/ Jiji Press <https://goo.gl/pQrKPg>

鈴木宗男元衆議院議員は東京でロシアのマスコミ代表者に対し、ロシアとの平和条約問題について1956年のソ日共同宣言の未だに遂行されていない条項を土台に解決することへの支持を表明した。鈴木氏は対露関係のエキスパートで安倍首相にも近い存在。

鈴木宗男氏は、9月23日付けの読売新聞に日本政府が南クリル諸島のうちシコタン（色丹）島とそれに隣接する無人のハボマイ（歯舞）諸島のみを獲得して平和条約を締結する用意があるのではないかという記事が掲載されたことについて、このプランを前向きに評価した。

残りのイトゥルプ（択捉）島、クナシル（国後）島については、読売新聞掲載のプランでは日本政府は2島への日本人の自由渡航体制を敷き、そこに合同の経済活動ゾーンを創設する用意があるのではないかと報じられている。この報道の信憑性を日本政府は公式的に否定している。

鈴木氏は、読売新聞に掲載されたプランについて問題を実際的に解決する1つの案と語り、安倍首相が9月2日、ウラジオストクでプーチン大統領と会談した際に「新たなアイデアに基づくアプローチ」への支持を表明したということは、諸島の主権および帰属のみを云々していたのでは前に進めないということを意味すると指摘した。鈴木氏は問題のプログマティックな解決を考えるべきであり、知恵を働かせ、ロシアにも日本にも利益がもたらされるよう行なう必要があると述べた上で他の道は残されていないと力説している。

鈴木氏は、まずは1956年の日ソ共同宣言を土台に2島の問題を解決すべきであり、その後、他の2島をどうするかについて話をつけるべきだと語っている。

<http://sptnkne.ws/cvmv>

米国、新たな国家軍事戦略を策定

(スプートニク 2016 年 10 月 06 日 18:34)

© AFP 2016/ Mandel Ngan <https://goo.gl/ypVhv0>

米軍司令部は新たな国家軍事戦略をたて、これを米国にとっての主要な挑戦と名づけた。ダンフォード米軍統合参謀本部議長が発表した。

「国際秩序の土台となる制度、構造は第2次大戦後から基本的には変わらず残されているにもかかわらず、同時に我々は我々に挑戦を投げかける勢力に直面している。」

ダンフォード米軍統合参謀本部議長はこうした挑戦を投げかける対象について、「ロシア、中国、北朝鮮、イランおよび急進主義の形をとり暴力を行使する非国家的な挑戦」と列挙した。

挑戦についての策提案は承認をあとぐため米指導部に提出される。

先に伝えられたところでは、ロシアは米国との原子力、エネルギー分野における学術研究と開発協力の政府間合意を停止した。

<http://sptnkne.ws/cvnr>

マスコミ：アルカイダは英国への一連の攻撃計画

(スプートニク 2016 年 10 月 06 日 18:39)

© AFP 2016/ AMC / FADI AL-HALABI <https://goo.gl/0hv05R>

テロ組織アルカイダは、「ダーイシュ（イスラム国、I S）」敗北を理由に欧州諸国に一連の攻撃を計画している。英国メディアが報じるところ、その中には英国も入っている。英国のマイケル・フェロン国防相は、アルカイダが敗北しておらず、英国と欧州の深刻な脅威だとし、次のように述べた。「アルカイダは依然アフガニスタン、シリア、イエメンで生きている」。

メディアによると、アルカイダの元最高指導者、ウサマ・ビンラディンの息子が数ヵ月前に音声メッセージを公開した後、同グループ内で自らの影響力を強めている。

<http://sptnkne.ws/cvmP>

ロシア国防省、1 年間のシリアでの作戦の結果を評価

(スプートニク 2016 年 10 月 06 日 19:52)

© Sputnik/ Russian Defense Ministry <https://goo.gl/y2vrd0>

セルゲイ・ショイグ国防相は 1 年前に開始したシリアでの作戦の結果を評価した。ショイグ国防相の演説は、軍備改良をテーマとした軍事技術カンファレンスで行われた。ショイグ国防相は次のように述べた。

「われわれの軍がシリアで軍事任務を遂行して 1 年になる。この間、同国での情勢を安定し、国際テロリストのギャングから同国の大部分を開放し、ロシアの紛争当事者和解センターの活動を確立することに成功した。」

ショイグ国防相によると、軍はまたカスピ海と地中海域にいる戦艦と潜水艦からの高精度遠距離

武器砲撃の実践的な経験を得た。そして戦略戦闘機は 4,500 キロの射程を持つ新型空中発射巡航ミサイル「Kh-101」を、実際の戦闘で初めて使用した。ショイグ国防相は、多くの国産兵器のモデルがシリアの砂漠という状況でチェックされたが、信頼性と効率性を示したと指摘した。

現在ロシアは将来性のある兵器を開発しており、開発にはシリアでの経験が考慮されているとショイグ国防相は述べた。カンファレンスではこの兵器をどのように作りこんでいくかという、専門家の意見と助言を聞く予定だとショイグ国防相は付け加えた。

<http://sptnkne.ws/cvqd>

マスコミ、ドイツの対露制裁準備を報じる

(スプートニク 2016 年 10 月 07 日 04:38)

© Fotolia/ VanderWolf Images <https://goo.gl/Ew6A3W>

ドイツ政府はシリアに関するロシア政府の立場を理由に対露経済制限を導入する可能性がある。5 日水曜日、ウォールストリートジャーナルが審議過程に詳しい情報筋をもとに報じた。

情報筋によると、ドイツメルケル首相政権は「モスクワに、シリアに関する方針を変えさせる様な可能性を研究している」という。だが、審議は初期段階にあるという。制裁そのものは経済的性格をはらむ可能性があるが、ドイツキリスト教民主同盟と連立を組む社会民主党の支持を受けるかは不透明なままだ。

一方、ドイツ外務省のマーティン・シェーファー報道官は、シリアでの政策を理由にした対露制裁導入の提案は現在のところ審議されていないとし、次のように延べた。「ドイツ政府の誰か、もしくは他の何処かでこのような提案をするであろう人物は誰も知らない」。

2014 年ドイツ政府は、EU がロシアへのクリミアの再編入を受けて導入した制裁に参加した。EU の罰を取りやめるために、ドンバスの情勢正常化に関するミンスク合意実行を要求した。

<http://sptnkne.ws/cvBv>

「ダーイシュ（IS）」、これからは猫が食料源

(スプートニク 2016 年 10 月 06 日 22:07)

© Sputnik/ Michael Alaeddin <https://goo.gl/2Cd6a>

「ダーイシュ（IS、イスラム国）」が掌握する都市、イラクのモスルでは家で猫を飼うことが禁じられた。「ダーイシュ」の地元指導部は市民に対し、自宅で猫を飼うことを禁ずる内容のファタ

ワー（勧告）を出した。イラクのマスコミ報道によれば「ダーイシュ」は特別巡回を行い、この禁止令が厳守されているかを調べる。

モスルは人口およそ 200 万人の大都市だが、食糧事情は人道的破滅状態に近い。このため、飼い猫禁止勧告を出したということは、武装戦闘員指導部はこの先、猫を食用に繁殖させることを警告した可能性がある。

「ダーイシュ」がインターネットで猫の話題がもてはやされていることを知ると、組織のネット上での P R 作戦で良いイメージ作りに猫を使った写真やビデオをさかんに撮影していたことは注目に値する。

<http://sptnkne.ws/cvWV>

中国レノボ、日本の富士通吸収の構え

（スプートニク 2016 年 10 月 06 日 22:19）

© AFP 2016/ 1/2 <https://goo.gl/UxF0Ny>

パソコンメーカー最大手の中国企業のレノボが日本の富士通と、富士通のパソコン事業吸収についての交渉を進めている。ロイターが報じた。

取引によって富士通は情報技術分野のサービスと商業活動の他の方向に力を集中することができるという。両者は 10 月末までに取引を終える予定だ。

なお先に伝えられたところによると、2015 年にツイッターで公開され話題となった CG 女子高生 Saya が動く動画が、千葉市幕張メッセで開催の「CEATEC JAPAN 2016」で初披露された。

<http://sptnkne.ws/cvB3>

WT I 原油価格、6 月末以来初めて 1 バレル=50 ドルを上回る

（スプートニク 2016 年 10 月 06 日 22:55）

写真 <https://goo.gl/W2G9R9>

世界の原油価格が 3 日木曜日伸び、WTI 原油価格は 6 月末以来初めて心理的な節目である 1 バレル=50 ドルを上回った。WT I 原油の 11 月先物価格は 0.58%伸び、1 バレル=50.11 ドル。北海ブレント原油 12 月先物価格は 0.66%伸び、1 バレル=52.19 となった。

最後に WT I 原油価格が 1 バレル=50 ドルに到達したのは 6 月 29 日、超えたのは 6 月 24 日だ。

投資家は、OPEC諸国がアルジェリアでの会合で合意したよりも大幅に、11月の会合の結果により原油生産を削減する可能性があるとのニュースに反応している。

原油の関連ニュースはこちら。<https://goo.gl/D9txkI>

<http://sptnkne.ws/cvB7>

理系大学、続々ロシアに参戦！大学交流特別予算も：日露学長フォーラム

(スプートニク 2016年10月06日 22:58 徳山あすか)

© Sputnik/ Tabyldy Kadyrbekov © Sputnik/ 1/2 <https://goo.gl/E70PRb>

6日、第6回日露学長フォーラム「大学と社会・現代世界における科学と教育」がモスクワ大学図書館で開催された。同フォーラムは、日本とロシアの大学が直面する課題、独自性や共通性を話し合い、両国関係の明日を担う人材を育成することに寄与するものだ。日本政府は、2020年までにロシアへの留学生を現在の5倍、2,500人まで増やすことを目標としている。

ロシア側からはモスクワ大学のヴィクトル・サドーヴニチイ学長、モスクワ物理技術大学のニコライ・クドリャフツェフ学長、ボロネジ国立大学のドミトリイ・エンドヴィーツキイ学長を始め、多数の大学関係者、教育関係者が参加した。日本側代表団は東北大学の里見進総長ほか、名古屋大学・早稲田大学・北海道大学・筑波大学などの大学関係者で構成された。

ロシアの大学は伝統的に理系が強い。モスクワ大学は現在、スパコン「ロモノーソフ2」の能力向上や人工衛星「ロモノーソフ」を始めとする宇宙研究プログラムに注力している。また「ノアの箱舟プロジェクト」という長期計画にも取り組んでいる。これは全世界に存在している生物の細胞を収集し、保護し、永久に保存するというものだ。

文部科学省高等教育企画課・国際企画室の岩渕秀樹室長は日露間大学交流について「日本がロシアに提案している8項目の経済協力プランのうち、7番の『先端技術協力』と8番の『人的交流の抜本的拡大』は、大学が大きい役割を果たす項目です。安倍首相も、日露の大学間交流を倍増させるべきだと述べています。来年度の予算はまだ決定していませんが、文科省は日露大学間交流のための予算を確保し、各大学が新たに交流を開始できるようサポートしていきます。来年秋には、6つの大学が交流を開始できるようになると見込んでいます。」と述べた。

多くのノーベル賞受賞者を輩出している名古屋大学は近年、科学都市であるクラスノヤルスクのシベリア連邦大学との協力を深めている。愛知県はクラスノヤルスク地方政府と積極的に交流しており、先日も日露友好を促進するNGOが設立されたばかりだ。名古屋大学の市橋克哉副総長は、特にロシアのシベリア地域、アジア地域との交流を深めたいと話した。

ロシア研究、特に人文学分野において老舗的存在の早稲田大学。早稲田大学文学学術院の坂庭淳

史教授は、早大はロシア研究拠点としての長い伝統があるため、図書館の蔵書量、学内で蓄積してきた研究、そして個人レベルでの繋がりにおいてもアドバンテージがあると話す。しかし他大学が意欲的にロシアにコミットし始めていることについては「うかうかしてられないと思っています」と話す。ロシア人気は安定しており、文学部のロシア語ロシア文学コースはここ数年、常に定員超えになっている。また、早稲田大学は学部を超えた研究者・教員の集まりであるロシア研究所も設け、社会科学分野でも頭角を現している。

フォーラムの共同議長を務めた東北大学の里見進総長は挨拶の中で、日露の経済関係が好転していることに触れ、日本とロシアはまだポテンシャルを生かしきれておらず、交流の深化には至っていないが、今後大きく発展する可能性を秘めている、と期待を示した。

<http://sptnkne.ws/cv63>

国連：シリアでの露米協力の停止は危機解決における後退

(スプートニク 2016 年 10 月 06 日 23:04)

© AP Photo/ Beбето Matthews <https://goo.gl/3vrJQK>

シリアでの露米協力の停止は、同国危機の解決における深刻な後退だとし、国連でシリア問題を担当するスタファン・デミストゥラ特使が記者団に次のように述べた。「これは深刻な後退であつたし、現在もそうだ」。デミストゥラ特使は、アレッポを含み起こっていることに対し「我々は緊急事態にあることを誰も否定できない」と付け加えた。

前に米国は、シリア停戦における露米協力を停止し、シリア上空での衝突を防止するためのロシア宇宙航空軍と米空軍間の軍事チャンネルのみを残すと発表した。

ロシア外務省が発表したところ、シリアでの紛争正常化に関するロシアとの作業の一方的取りやめについての米国務省の声明は、深い失望を引き起こさずにはおれず、ロシア政府はこの決定を受けて、状況、そして米国の行動が世界の前でどのようにみえるかをもう 1 度評価し直すよう米国に呼びかけた。

<http://sptnkne.ws/cvBE>

OPEC、合意以上に原油生産削減の意向

(スプートニク 2016 年 10 月 06 日 23:19)

© REUTERS/ Ramzi Boudina <https://goo.gl/uIe2gl>

OPEC加盟諸国はアルジェリアの会合で合意したより大幅に原油生産を削減する可能性がある。

アルジェリアのヌレディン・ブテルファエエネルギー相が発言した。ブテルファエエネルギー相は次のように述べた。

「我々は11月末にウィーン市場を評価し、もし70万バレルでは不十分だと判明すれば、（削減レベル）を引き上げる。」

9月28日、OPEC諸国はアルジェリアの非公式会合で原油生産を一日3,250万バレル制限する合意にこぎつけた。

<http://sptnkne.ws/cv9m>

プーチン大統領 10月19日に仏訪問 シリアとウクライナについてオランダ大統領と協議 (スプートニク 2016年10月06日 23:50)

© Sputnik/ Alexei Druzhinin <https://goo.gl/dZ2wQ4>

ロシアのプーチン大統領は10月19日にフランスを訪問し、同国のオランダ大統領とシリアおよびウクライナについて話し合う。6日、ロシアのラヴロフ外相が明らかにした。ラヴロフ外相は、フランスのエロー外相との会談冒頭、「同訪問は独別な意味を持つと考えている」と述べた。

ラヴロフ外相は、両首脳について、「内容豊かな文化プログラムが予定されており、これもロシアとフランスのパートナーシップの伝統を反映している。もちろん彼らはシリアやウクライナをはじめとした国際問題についても話し合う」伝えた。さらにラヴロフ外相は、ロシアは現在シリアで起こっていることを非常に懸念しており、シリア情勢の正常化に関心を持っていると強調した。

<http://sptnkne.ws/cvBK>

ラヴロフ外相、シリアへの攻撃希望者が米国で勝利しないよう期待 (スプートニク 2016年10月07日 04:01)

© AFP 2016/ Wu Hong <https://goo.gl/b0KtdU>

ロシア政府は、シリアに攻撃を加えようと望んでいるものが米国で勝利しないことを期待している。今日、ラヴロフ外相が次のように述べた。

「米国政府に武力を用いることを望むものがあると今読んでいる。これは秘密ではない。彼らがやはり勝利しないことを望む。我々は、この噂にコメントするよう求められ、ホワイトハウスが出した回答の中に、非常にバランスの取れたコメントを聞いた。」

なおシリアでの紛争の軍事的解決の可能性についての話は、ジョン・ケリー米 국무長官の無数の接触の中ではされることがないと、ラヴロフ外相が述べた。

ラヴロフ外相は、ジャン＝マルク・エロー仏外相との会談の結果についての記者会見で次のように述べた。

「我々とケリー国务長官は定期的に会話している。今年 55 回以上の電話会談に 10 回の個人的な会談だ。私は彼から、少なくとも彼が私と一緒にいるときは、ここ（シリア紛争に）軍事的解決があるなどとは聞いたことが無い。」

ラヴロフ外相は、米露が国際シリア支援グループの宣言に、シリア危機解決が軍事的方法では不可能であることを加える必要があると強く主張したシリア支援の国際グループ参加諸国の中にいたと指摘した。

<http://sptnkne.ws/cvBM>

国連安保理、次期国連事務総長にポルトガルのグテーレス元首相を推薦へ

（スプートニク 2016 年 10 月 07 日 01:30）

© REUTERS/ Denis Balibouse/File photo <https://goo.gl/CdZLd0>

国連安保理は次期国連事務総長のポストにポルトガルのグテーレス元首相を推薦することで了承した。木曜日、ロシアのヴィタリー・チュルキン国連大使は国連で記者団に対し次のように述べた。「国連安保理は国連総会に、アントニオ・グテーレス氏を次期国連事務総長として任命するよう推薦する」。チュルキン国連大使は、グテーレス氏への投票の際、国連安保理メンバー「一体性」を見せたと強調した。

<http://sptnkne.ws/cvBZ>

ラトビア、政権に忠誠を示さぬ教師は解雇できる法修正が進行

（スプートニク 2016 年 10 月 07 日 02:33）

© Fotolia/ Kzenon <https://goo.gl/uV9xx4>

ラトビア政府は、学校の教師または指導部がラトビアに対し忠誠を示さない場合は雇用者に解雇を許すという教育法の修正を承認した。修正案はこの先議会で審議にかけられる。シャドウルスキス教育科学相は同法修正について、若い世代の躰を目的としたものと説明し、「たったひとりの教師が何十人もの若者の人生を台無しにすることだってありうる」と語っている。情報ポータル「デルフィー」が報じた。シャドウルスキス教育科学相は国立教育質庁はすでに学校、父兄、学生から

寄せられる声の処理作業を行なっていると語っている。

なお先に伝えられたところ、数万のポーランド女性が大規模抗議活動「ブラック・マンデー」に参加した。参加者は全員黒い服を着用。参加者は、国内での中絶が禁止される可能性に不満を覚えている。

<http://sptnkne.ws/cvCk>

国境で拘留された米国人、「より良い生活」を求めシベリアに

(スプートニク 2016 年 10 月 07 日 03:58)

© AP Photo/ Sandor Ujvari <https://goo.gl/sla4WS>

非合法に越境したとして 9 月半ばノボシビルスク州で拘留された米国人が、シベリアに来た理由を語った。検察が発表したところ、フリオ・プリエト氏（29）は違法な越境の理由を仕事探しと説明した。プリエト氏との対話のため米大使館の代表に連絡することになったが、同氏によると、彼はよりよい生活を求めてシベリアに来た。それまで男性は故郷の米コロラド州から訪れたカザフスタンにいた。プリエト氏は違法な越境を認めた。事件は裁判に持ち込まれた。ロシア連邦刑法によると、プリエト氏には 2 年以下の拘留の可能性がある。

先に伝えられたところによると、米国で子供も大人も脅かしていたピエロが逮捕された。

<http://sptnkne.ws/cvBB>

プーチン大統領の最後通告

(スプートニク 2016 年 10 月 07 日 14:21)

◎ 写真: Rudi Riet ◎ Sputnik/ Sergey Guneev 1/2 <https://goo.gl/XgnbT0>

ロシア大統領の兵器用プルトニウム処理に関する露米合意順守の停止に関する指令が出されると、メディアでは、そのこととシリアにおける取引の破綻との関連について議論が始まった。なぜロシアが米国による不履行を知りながら数年後になってやっと反応したのかという点は第二の疑問だ。スプートニク評論員ロスチスラフ・イシチェンコ氏が述べた。

一部の原子力専門家は、取引は原子力産業の観点からロシアにとり客観的に有益だったと見る。安全保障に関しても特に問題はなかった。ロシアは米国に致命的な打撃を与えるのに十分な核兵器を保有していた。シリアについては、米国が契約を結び、順守を拒み、また別の契約を結ぶということは、シリアがはじめてではない。

事の重大性を理解するために、プーチン氏が当の条約からロシアを離脱させたというわけではないという点に注意を払う必要がある。条約への復帰の可能性はある、とされた。ただし、そこには一定の条件がつけられた。米国のロシアに対するすべての制裁措置の廃止、米国の制裁とロシアの対抗制裁による損失に対する賠償金の支払い、マグニツキー法の廃止、東ヨーロッパにおける米国の軍事的プレゼンスの大幅削減、モスクワに刃向かう政策の終了。このプーチン氏の要求は一語で言って、最後通告である。

プーチン氏は謝罪など求めている。求めているのは米国のあらゆる政策の変更である。これは不可能な、屈辱的な要求だ。事実上、これはハイブリッド戦争における完全かつ無条件の降伏の要求であり、しかも賠償や補償金の支払いさえ含んでいる。プーチン氏は意図的に、誇示するかのように米国を辱め、米国などとは、残りの全世界に対して慣習的に使っていたような口調より、むしろ厳しい口調で話してよいのだということを示した。

しかし、プーチン氏は実際、何に応答したのか。彼は米国がシリアに関する取引を守ることなど期待していなかった。そのために落胆したのでもあるまい。米国が何年もプルトニウムに関する合意を守っていないこともロシアは関知していた。しかし、今やプルトニウム加工の分野でモノポリストとなったモスクワは、米国が技術的に遅れて兵器用プルトニウムを加工できなくなったことに不安を覚えるわけがなかった。

米国国務省の報道官が声明を出し、ロシアはシリアから死体袋で軍人を贈り始めるだろう、ロシアはシリアで飛行機を失うだろう、ロシアの諸都市がテロに遭うだろうという、すぐにロシアは強硬な反応を示した。国務省報道官のすぐあとには国防総省のロシアに対する先制核攻撃の用意があるとの声明も出た。ロシア外務省は、米国がシリア政府軍に対する空爆開始の意図があるとモスクワは知っている、と発表。シリア政府軍に攻撃が加わるということは、シリアにおける合法的に配備されたロシア軍にも攻撃が加わるということだ。

オバマ政権下、緞帳の向こうで、タカ派はまたしても掛け金を上げた。そして、紛争がもはや自律的に発展するまで、事状況を加熱させてしまった。こうなればもはやあらゆる偶然から核のアルマゲドンが発生してしまいかねない。たとえば、ペンタゴンやホワイトハウス高官のささいな不適切な行動から。

まさにそうしたタイミングでロシアはイニシアチブをとり、対立を新平面に移行させることなく掛け金を引き上げた。アメリカと違いロシアは戦争の脅威をあおったりしない。ロシアは単に強硬な政治経済的応答の可能性を示したのだ。米国に選択が提示された。自らの脅迫を実行し、核戦争を始めるか、世界はもはや一極ではないと認め、新フォーマットに組み入ろうとするか。米国がどう応えるかを見てみよう。しかし地政学環境は従前とは異なる。世界はもはや変わった。米国に挑戦状がたたきつけられたが、米国にはそれに応える勇気がない。

<http://sptnkne.ws/cv8h>

エールフランス、イスラム主義者の社員数の増大を憂慮

(スプートニク 2016 年 10 月 07 日 09:18)

© Photo: REUTERS/Christian Hartmann <https://goo.gl/kqktQE>

エールフランス航空および特務機関は、エールフランスの急進主義的な社員の行為による不審な事件の件数が増えたことを受け、安全策を強化した。航空業界のニュースポータル、エアーライブがマスコミ報道を引用して報じた。これより前、エールフランスは「アッラー・アクバル（アッラーは偉大なり）」と書かれた 40 本のケロシンの入った容器が発見された事実を仏政権に通知していた。「アッラー・アクバル」はイスラム主義者らがテロを行なう前によく唱える文言。

エールフランス航空社内ではこの他にも過去数ヶ月間に不審な事件が数件起きている。パイロットからは操縦室での不具合についての苦情が再三にわたって出されていたが、調整を担当していた機械工は突然仏から出国し、その後イエメンで目撃されている。また別の 2 人の社員も避難計画のスライドを数枚、模造していた疑いがもたれている。

先の報道では、イラク軍は、テロ組織「ダーイシュ（I S、イスラム国）」の戦闘員が未成年者と結婚していることを証明する文書を発見した。

<http://sptnkne.ws/cv9H>

国連：アレッポ東部は 2 ヶ月後完全に破壊されている可能性

(スプートニク 2016 年 10 月 07 日 10:07)

© AFP 2016/ Karam Al-Masri <https://goo.gl/akc9bN>

国連でシリア問題を担当するスタファン・デミストゥラ特使は、激しい戦闘行為が続いた場合、アレッポ東部は 2016 年末までには完全に破壊される可能性があると言った。スプートニクが報じた。デミストゥラ特使は次のように述べた。

「さて、もし爆撃が続いた場合、一体何が起こる可能性があるか？ 最大で 2 ヶ月か 2 ヶ月半の期間で、このような激しい爆撃はアレッポ東部を完全に破壊する可能性がある。これは特に旧市街についての話だ。」

先にワシントン・ポストが報じたところ、米国はシリアでアサド大統領側の政府軍に空爆を検討している。

<http://sptnkne.ws/cvCW>

米投資会社、ルーブル大量購入を助言

(スプートニク 2016 年 10 月 07 日 10:56)

写真 <https://goo.gl/cHC6Bk>

米投資会社ブラックロックは世界の原油価格増加を背景に、ルーブルを大量購入するよう投資家たちに助言している。ニュースサイト「プライム」はブラックロックのある支社のトップであるセルジオ・トリゴ・パズ氏の次の言葉を掲載した。

「原油が伸びるときは、ルーブルの中にいる必要がある。」

パズ氏はまた、ロシアは成長に戻ってきており、それゆえルーブル債市場はトレーダーたちにとって非常に魅力的だと指摘した。パズ氏によると、同社は世界の原油価格が 1 バレル=60 ドルに達すると期待している。

<http://sptnkne.ws/cvCY>

騒音と地震は論拠ではない：英国やっぱりガス採掘でフラッキングを許可

(スプートニク 2016 年 10 月 07 日 11:42)

© AP Photo/ Jim Suhr <https://goo.gl/qTVZGC>

英国政府は、イングランド北西部ランカシャー、ブラックプール近郊のプレストンニューロード産地で、フラッキング（水圧破碎法）でガスを採掘する許可を出した。産地の開発権を所有する Cuadrilla Resources 社が 6 日、発表した。

フラッキングではシェール層に極めて強い圧力がかけられ、これまでアクセスできなかったガスの入った「ポケット」を開くことが可能。プレストンニューロードは、フラッキングが用いられる英国初の産地となる。

許可を与えたのはコミュニティ・地方政府省と同省のサジード・ジャビド大臣。政府は、2015 年半ばに環境や人間の健康への影響、この方法でガスを掘削することに関連する大きな騒音を懸念したランカシャーの地方議会によって禁止されたプレストンニューロードでのフラッキングを解禁した。2011 年にランカシャーで行なわれたシェールガスの試験採掘では、小さな地震も観測された。マスコミによると、近郊のローズエーカーウッド産地でも同じような許可が下される可能性があるという。

<http://sptnkne.ws/cvAb>

米将軍、未来の対露・対中戦争を語る

(スプートニク 2016 年 10 月 07 日 13:29)

© Sputnik/ Vitaliy Ankov <https://goo.gl/1kCQq6>

米国の将軍たちが、未来の対露・対中戦争は素早く、そして多数の犠牲者を出すと発言した。このような評価が出されたのはワシントンの米国軍協会年次カンファレンスにおいてだ。英インデペンデント紙が 6 日木曜日報じた。

同紙によると、4 日行われたカンファレンスで米陸軍参総長のマーク・ミリー氏は、未来の大規模戦争は「実質的に不可避」だとの意見を述べた。

また少将ウィリアム・ヒックス氏は、「近い将来での普通の兵器を使ったあらゆる紛争は極めて迅速に進み、大人数の犠牲者をもたらす」と指摘し、「我々は自らの望みどおりに戦争を止めることができなくなる。」と付け加えた。

ヒックス少将は、これは第一に戦闘行為遂行の大規模自動装置と、人工知能の発展によって引き起こされると説明した。ヒックス少将によると、露中の軍事構築と新技術創設の成功は、米国政府を、朝鮮戦争の時代から米軍が目にしていないような規模での戦争に備えるよう強いた。

<http://sptnkne.ws/cvBg>

福島第 1 原発で高濃度の汚水漏れ

(スプートニク 2016 年 10 月 07 日 14:54)

© AP Photo/ David Guttenfelder <https://goo.gl/zAVPHR>

福島第 1 原発では地下の貯蔵タンクから高濃度の放射性汚染水の漏れているのが見つかった。7 日、東京電力が明らかにした。

東京電力によれば汚染水の量は 32 リットルでベーター線を出す放射性物質が 1 リットルあたり 59 万ベクレルが検出された。通常、海水に放出できるレベルは 1 リットルあたり 150 ベクレル。東京電力は漏洩を止めるため、汚水の一部を他の容器に移し変えた。

福島第 1 原発では原子炉の冷却によって排出する汚水量が常に増えているため、修理や古い円筒型タンクの交換が間に合わず、これが汚水漏れの原因になっている。

<http://sptnkne.ws/cvDg>

シリア大統領、「穏健」反体制派というのは作り話

(スプートニク 2016 年 10 月 07 日 16:28)

© AP Photo/ 中東 2016 年 10 月 07 日 16:13 <https://goo.gl/1F8Plk>

シリアのアサド大統領はシリア国内にはいわゆる「穏健」反体制派は存在せず、この表現は作り話だと語った。アサド大統領はデンマークの第 2 TV 放送からのインタビューにこう語っている。

「サイという動物はご存知ですね。これは角のついた馬ですか？ ちがうでしょう。これと同じく穏健反体制派というのも作り話で存在していないのです。だから存在していないものを存在しているものから分離させることは出来ないのです。」

アサド大統領は「穏健」反体制派と急進主義者の線引き問題で米国が困難に直面しているという司会者の話にコメントした中でこう語った。アサド大統領は穏健反体制派も急進主義者も構成しているのは全く同じ人間で、これらは 4、5 年前「自由シリア軍」と呼ばれていたものの、その後「ヌスラ戦線」と名称を変え、それから「ダーイシュ（IS、イスラム国）」になったと補足している。

「全く同じ人間たちがこっちのグループからあちらのグループへと移動しているだけの話です。だから米国はこれらの人間の線引きができない。それにそれをする気も米国にはないのです。」

先に伝えられたところでは、シリアのアサド大統領は、なぜ西側がシリア政府の勝利を危惧しているのか語った。

<http://sptnkne.ws/cvEj>

露日ビジネス： ルールの簡素化が必要

(スプートニク 2016 年 10 月 07 日 19:58 リュドミラ・サーキャン)

© Fotolia/ peshkov <https://goo.gl/kc3LjF>

安倍首相の計画にのっとり、露日の経済部門での相互接近が始まっている。両国間の経済関係が、エネルギーや中小企業、極東工業化、輸出ベース拡大など 8 項目で加熱する見込みだ。障害も多いが、いわゆる「進む者は道を踏破する」である。日本企業のロシアとの協力への関心は、先に開かれた国際会議コールトランス日本でも明らかに示されている。日本のエネルギー市場の動向は石炭が非常に高く需要されるようなそれとなっている。会議ではロシア極東の石炭港「ヴォストーチヌイ」第 3 レーンの建設計画に多大な関心が集まった。同港からは今年の 9 ヶ月を通じて日本へ 450 万トンもの石炭が輸出された。これは昨年 の 28.8% 増だ。その競争力はすでに高く評価されている。港では積み替えのほか、分類や、ラベル貼り、金属不純物の積層磁気クリーニングなどが行われている。その第 3 レーンが稼働すれば、同港がアジア太平洋地域向け輸出用の最大級のハイテク石炭ターミナルとなる見込みもある。よって日本の K O B E L C O 神戸製鋼、住友、三井、三菱商事 R

t Mジャパンといった大手が港の整備に高い関心を寄せた。ただし、日本だけでなく、他のアジア太平洋地域の競争相手も関心を示している。

日本の大企業に可能性があり、多くはロシアとの協力の経験もあるのに対し、中小企業はそう簡単な話ではない。先日露日実務協議会および経団連が締結した協力合意はまさに両国の中小企業間のマッチングを支援するためのものだ。協定は、日本企業のロシアにおける、またロシア企業の日本における貿易投資活動の支援を本質とする。露日実務協議会は2004年に当時のロシア貿易産業会議総裁エヴゲーニイ・プリマコフ氏によって設立された。日本商工会議所、ROTOBO（ロシアNIS貿易会）、ジェトロ（日本貿易振興機構）などがパートナーに名を連ねる。5日、ロシアとの経済協力計画実現のために特設された作業グループの最初の会合があった。日本の財務当局が主催するものだ。そこでは計画の財務・金融的側面が検討された。たとえば露日間の財政システムや実務慣行の相違点や、米国の対ロ制裁の融資計画に与える影響なども討議された。

露日実務協議会の代表で社会团体「ジェラヴァーヤ・ロシア（実務ロシア）」総裁のアレクセイ・レピク氏が見解を語った。

「最大の貿易相手である米国から恒常的な暗黙の不同意がなければ日本との仕事はより楽にはなったであろう。しかし、制裁が解除されれば、それだけで日本と効果的な仕事ができるようになるだろうか。そうは思わない。先日まで日本とロシアの企業間実務関係の樹立にはたいして注目が集まっていなかった。国レベルでは特にエネルギー部門の巨大プロジェクトに関心が集中していた。資源以外の企業は独力で橋を架けることを強いられていた。しかしもっと日本企業がそこで働いてくれることは必要なのだ。露企業が日本と仕事を始められるようにするために。双方の側で橋を架け合うために。そのためには投資家のために好適な環境を整備し、また、両側の企業のためにゲームのルールを最大限簡素化する必要があるのだ。投資計画が優先されるべきだ。今年の露日政府間委員会ではロシア側は50を超えるロシアのプロジェクトを提示した。日本側は案件を、検討のため、いわゆるお持ち帰りになった。b2b、企業間取引と呼ばれるものの発展には、安倍首相も熱いまなざしを向けている。」

第二回東方経済フォーラムの前夜、ウラジオストクで、経団連の朝田照男日本ロシア経済委員長が、今日本とロシアの間で経済的な接近への大転換が進行している、と述べたことを改めて記しておこう。

<http://sptnkne.ws/cvFR>

米国、2基の核爆弾の弾頭装填実験を実施

（スプートニク 2016年10月07日 20:53）

◎ 写真: Public domain <https://goo.gl/JpuEsN>

米エネルギー省付属国家核安全保障局と米空軍は10月、二度の核爆弾の弾頭装填の実験を行なっ

たことを明らかにした。実験に使われた核爆弾はB61の派生形。国家核安全保障局広報部が発表した。

発表によれば実験が行なわれたのはB61-7とB61-11の弾頭装填で両方の爆弾とも核は装填されていない。実験はネバダ州トノパ射撃場で戦略爆撃機B2Aスピリット2機を使って行なわれてた。2機には敵のレーダーにキャッチされにくいステルス技術が用いられている。

国家核安全保障局の説明では投下された弾頭装填には爆弾の精度、信頼性を確定する目的で爆弾の飛行を図る装置が設置されていた。国家核安全保障局は、実験はデータ分析の結果、成功したことを明らかにした。

先に伝えられたところでは、米国の将軍たちが、未来の対露・対中戦争は素早く、そして多数の犠牲者を出すと発言した。

<http://sptnkne.ws/cvGZ>

ロシア国防省 キューバ及びベトナムの軍事基地返還問題を検討中

(スプートニク 2016年10月07日 19:20)

© Sputnik/ Vladimir Fedorenko <https://goo.gl/erDlMC>

金曜日、ロシアのニコライ・パンコフ副国防相は、下院・国家会議で「我々は、以前ソ連軍基地があったキューバやベトナムの基地返還問題を検討中だ」と伝えた。なおパンコフ副首相は「我々は、その作業に取り組んでいる」と述べたが「この問題の詳細については話したくない」と強調した。副国防相によれば、現在ロシア国防省指導部は、こうした国々の軍事基地撤去に関し下された諸決定を解釈しなおしている、とのことだ。ソ連、そしてその崩壊後それらを受け継いだロシアの軍事基地は、キューバ、ベトナムに2002年前で存在した。ロシア軍の関連ニュースはこちらから。

<http://sptnkne.ws/cvM9>

ドイツ 新たな対ロシア制裁準備を確認

(スプートニク 2016年10月08日 04:55)

© Sputnik/ Vladimir Sergeev <https://goo.gl/1lmgY4>

ドイツ議会対外政策委員会のノルベルト・リョットゲン委員長は、南ドイツ新聞の取材に対し「我々は、ロシアに対し新たな制裁を導入する意向だ。今回の制裁は、シリアにおけるロシア政府の政策に関連したものになるだろう」と述べた。

一方、新聞「イズヴェスチア」は、多くの政治家や専門家に意見を聞いた後で「ベルリンで、新たな対ロシア制裁について討議がなされているとは、誰も耳にしていない」と報じている。

2014 年夏、ドイツ政府は、ウクライナにおける出来事を理由にロシアに対し導入された EU による制裁措置の提唱国の一つになった。

ロシアのラヴロフ外相は、欧州に「良識」がよみがえるよう期待感を表している。またロシアのペスコフ大統領報道官は「ロシアはシリアにおいて法的根拠に則って軍隊が作戦を行っている唯一の国家であり、EU が制裁を導入する対象ではないとクレムリンは見ている」と述べた。

<http://sptnkne.ws/cwcy>

韓国外相 世界各国に北朝鮮との断交を訴え

(スプートニク 2016 年 10 月 08 日 04:11)

© AP Photo/ Lee Jin-man <https://goo.gl/45T4m6>

韓国のユン・ビョンセ（尹 炳世）外相は、北朝鮮に対し、外交関係断絶あるいは公式接触のレベルの引き下げなど「より積極的な外交的措置を取るよう」世界各国に呼び掛けた。金曜日、聯合通信が伝えた。ユン外相は、同通信のインタビューに応じた中で「北朝鮮との外交関係において、より攻撃的な措置を取る時が来た」と述べた。

その際、ユン外相は、国連憲章第 41 条を引用した。その中では、国連安全保障理事会の決定を遂行するため、問題のある国々に対し影響を及ぼす措置の中には「完全あるいは部分的な経済関係の中止、鉄道及び海上交通、航空便の停止、郵便・電信・無線その他の通信手段の休止、さらには外交関係断絶を含めた」措置が含まれ得る、と述べられている。こうしたアピールをユン外相は、ブリュッセルでの NATO 理事会で述べ、先月ワシントンでダニエル・ラッセル国務次官補が明らかにした立場を支持した。

先の報道では、韓国のパク・クネ大統領は北朝鮮市民に南へ逃げるよう公然と呼びかけた。

<http://sptnkne.ws/cwc8>

北朝鮮は再び核実験を準備してる？

(スプートニク 2016 年 10 月 08 日 00:45)

© REUTERS/ KCNA <https://goo.gl/tzKMnd>

最新の衛星写真は、北朝鮮の核実験施設豊溪里（プンゲリ）が活発なことを示すとして、米ジョ

ン・ホーキンス大学の米韓研究所が運営する北朝鮮分析サイト「38 ノース」に掲載された声明には次のように書かれている。

「9月9日に核兵器実験が行われた北トンネル入り口付近の活発さは、実験後のデータ収集を含む一連の課題の目的、入り口の封鎖もしくは新たな実験への準備に起因する可能性がある。」

活発さの兆候は、西、南トンネルでも見られた。声明には次のように書かれている。

「核実験実施の決定がとられた場合、南トンネルは核実験に耐えうると仮定されているが、この行動の目的もまた不透明だ。」

先に伝えられたところ、北朝鮮は新型ミサイルエンジンの実験に成功した。

<http://sptnkne.ws/cwcE>

ハッカー攻撃、糖尿病患者も殺害のターゲットにできる

(スプートニク 2016 年 10 月 08 日 02:35)

East News/Media for Medical/UIG <https://goo.gl/Mn7Ta7>

製薬医療機器メーカーのジョンソン・エンド・ジョンソン社は自社開発の遠距離インスリン投与注射器「ワンタッチ・ピンポンプ」がハッカー攻撃を受ける危険性があることを明らかにした。BBCが報じた。

J & J 社の「ワンタッチ・ピンポンプ」のサイバー攻撃による脆弱性を見つけたのはサイバーリスク管理企業「ラピッド7」のジェイ・レドクリフ調査担当。レドクリフ氏は、「ワンタッチ・ピンポンプ」のポンプと高周波リモコン間の信号のやりとりがわずかに25メートル離れた場所からのサイバー攻撃で破壊できることを突き止めた。ハッカーによってインスリン量を増やされてしまった場合、患者は死に至る危険性もある。

J & J 社はサイバー攻撃を受ける危険性は極めて低く、ポンプは安全で信頼性が高いとこれに反撃。同社によればこれまでサイバー攻撃を受けた例はない。「ワンタッチ・ピンポンプ」は2008年に発売が開始。煩雑な計量操作が省かれ、遠距離からリモコンでインスリンの量をコントロールできる。

先に伝えられたところ、ノーベル賞受賞者大隅良典氏が発見、解明したオートファジーの仕組みは、将来的に生き物や人の寿命を延ばす道を見つけることができる。

<http://sptnkne.ws/cwcM>

シリア外相 10 月末にモスクワ訪問

(スプートニク 2016 年 10 月 08 日 03:31)

© AFP 2016/ Vasily Maximov <https://goo.gl/cB6rfT>

シリアのムアレム外相が、今月 10 月末にモスクワを訪問する。タス通信が、ロシアのゲンナジー・ガチロフ外務次官の発言を引用して伝えた。ガティロフ外務次官は「今月末、ムアレム外相は、シリアに形成された状況を話し合うためモスクワを実務訪問する見込みだ」と述べた。

先の報道では、シリアのアサド大統領はシリア国内にはいわゆる「穏健」反体制派は存在せず、この表現は作り話だと語った。

<http://sptnkne.ws/cwcN>

イスタンブール 道路の縁石に前足を載せた名物猫の銅像誕生

(スプートニク 2016 年 10 月 08 日 05:08)

© Sputnik/ <https://goo.gl/TEfA48>

トルコ最大の都市イスタンブールに、トムビリという名前の雄猫がかつて住んでいた。彼はいつも、考え深げに道の縁石に前足を載せて座っていた。このポーズのおかげで、その後トムビリは、世界的に有名な猫になった。

<https://www.instagram.com/p/BKiRg40AhiQ/>

そのトムビリが今年 8 月 1 日に、惜しまれながら、この世を去った。その後、彼を懐かしんだ多くの市民から当局に、銅像を作ってほしいとの請願が寄せられた。そして 2 ヶ月後の 10 月、ついに彼の銅像が誕生した。

<https://www.instagram.com/p/BLGQxVfh9oN/>

彫刻家のセヴァル・シャヒン氏は、当局の決定を待ち切れず、自分で銅像を作った。銅像が一般の人達に公式に「お披露目」されたのは、4 日の「動物の日」だった。

<https://www.instagram.com/p/BLF2fzvDsGY/>

トムビリは、インターネット中で大人気となった唯一の猫ではない。つい最近も、すでに数年間、ニューヨークのお店を管理している雄猫がネットで評判になった。

<http://sptnkne.ws/cwcS>

米国防総省とオバマ大統領はシリアに関して合意できない。次期大統領にはそれができるか？

(スプートニク 2016 年 10 月 08 日 06:12 タチヤナ・フロニ)

Official White House Photo by Pete Souza <https://goo.gl/XbD7yI>

ロシアと米国は米国で大統領選挙が終わるまではシリアに関して何らの飛躍的合意も結ぶことが出来ない。ロシア議会上院国際委員会のコンスタンチン・コサチョフ議員が述べた。

ロシアのラヴロフ外相は米国のケリー国務長官との会談で度々シリアに関して一致点を見つけてきた。しかしケリー氏が合意実現に乗り出すや否や、ワシントンからはそのたび修正がとどき、または、合意は実施されないとの断定が出された、と同議員。

結果ロシアは米国当局の一部または個別の省庁がそれぞれ異なるシリア問題の解決策を出すという事態に出くわすこととなった。米国当局内の不一致の原因について政治学者で「エクスペルト」誌評論員のゲヴォルグ・ミルゾヤン氏がスプートニクに語った。

「ペンタゴンはオバマ大統領を弱虫と見なし、大統領には複雑な決定は出せないとみなしていることにすべての原因がある。結果たえざる後退があり、それで米国の国益が損なわれている。ペンタゴンは昔からオバマ大統領に対しシリア軍事作戦開始を求めてきた。しかし当局者らはそうした行動の危険性をよく理解していた。しかし軍事当局の執拗な要請があり、ホワイトハウス内での紛争が勃発してしまった。オバマ大統領が自分のいる場所でシリアにおける戦争の可能性に言及することを禁じるまでの事態となった。しかし今やペンタゴンは、オバマは弱い、彼には決定が下せないと感じ、オバマ氏の背後で何事かを行おうとするようになった。シリア紛争の現段階ではケリー国務長官はロシアとの交渉を積極的に推進していた。それに尋常でない努力を傾けてきた。オバマ大統領もそれを支持していた。しかしそのような膨大な努力のすえ達成されたせつかくの合意は結果的に破綻してしまった。オバマ政権が今日の時点で、残念ながら、軍部および同盟者らに管理を及ぼせていないからだ。よって、こうなると、現政権と合意を結んでももはや意味がない。それは米国との関係が悪いからではなく、単に、米国には今の状態では合意を順守することができないという現実を理解しているからだ。」

しかしそのような状況が当事者間の全面的な無理解に至り、ペンタゴンがシリアに関するいわゆる「プランB」を実現しだすということにならないものか。そのプランとは他でもない、シリアの政府軍に対する攻撃というものである。このような報道を背景にすると、デリゾールにおけるシリア軍への攻撃は、一種の「試作」のように見える。もっとも米国は依然としてそれを「偶然的な誤り」であるとしているが。多くのアナリストが、ペンタゴンは真剣にいわゆる「沈静化のための過熱化」の可能性を検討し、分析していると見ている。

「ペンタゴン内の多くの人が、現状では、紛争を軍事的に解決したくて手がうずいている。過熱化の危険は本当に高い。プーチン大統領はプルトニウム最後通牒をもってどうにかヒステリーをおさめて一定時間ほとぼりを冷ますべきだと訴えた。もし米国がリスクをとってシリア軍に攻撃を行い、その中にフメイミム基地もあったなら、彼らがロシア機を撃墜しないとう保証

などどこにもない。したがって、対向して米国機が撃ち落とされないという保証も。もし両核大国間の紛争が部分的にもせよカリブ危機のレベルに近づいたなら、欧州のパートナーらが米国の紛争軍事解決を支持するとは思わない。おそらく事態を悪化させた米国自身が悪いというだろう。誰もそれほど厳しく両核大国が争うような世界に生きたくはないから。」

しかし米国との交渉の新ラウンドに移行することも今や意味がない。そして、米国が現段階で交渉を停止してしまったことを含め、和平が破綻してしまった中にも、一応の肯定的な要素は見出せる。ホワイトハウスに新政権ができれば、もしかしたらシリア問題の決定的な解決に復帰できるかもしれない。もしかしたら楽観主義に過ぎるかもしれない。クリントン氏もトランプ氏も外交に関しては相当に強硬派である。しかしそれでもシリア問題についてオバマ氏の後継者はより容易に変革を行えるだろう、とミルズヤン氏。

「クリントン氏になろうとトランプ氏になろうと、ロシアにとってそう大きな違いはない。とにかく決定をただとるだけでなく実行もできるような新たな面々が来ることが大事だ。ヒラリー・クリントンを悪魔化し過ぎることも控えたい。たしかに独自の観点や状況への厳しい発言が見られる。しかし政権につきさえすれば、観点を軟化させるかもしれない。指導部交代にともない、ペンタゴンも好戦的な立場を改めるかもしれない。すれば対話に復帰することが我々には容易になる。なにしろロシアと米国はシリアにおいて共通の利益をもっているのだ。シリア内戦に終止符を打つ、ということがそれだ。それぞれがそれぞれ背負っているものがあるのは当然。しかし、ロシアも米国も、シリア紛争にあまり深入りしたくない、むしろそこから抜け出したいと願っているのだ。」

米国がシリア紛争に関わる限り、毎月毎月米国は敗北を喫し、イメージを大幅に下げている。誰を信頼したらいいのかもはやわからなくなっているのだ。よってロシアと米国双方の利益のために、シリアに関し何らかの妥協を見つけた方がいい、とミルズヤン氏。

※なお記事の中で述べられている見解は、必ずしも編集部との立場とは一致していません。

<http://sptnkne.ws/cwcT>

ロシア、軍事費削減

(スプートニク 2016 年 10 月 08 日 08:49)

© Sputnik/ Host photo agency / Maksim Blinov <https://goo.gl/xh1Vx1>

ロシアの 2017 年度予算における国防費の割合が国内総生産（GDP）の 3.3%まで下がる。この情報は、ロシア財務省が作った「2017 年度予算政策主要方向」に含まれている。2017 年度の予算の主な歳出項目は社会保障費（GDP の 13.5%）、経済政策（4.4%）、教育（3.6%）、国防（3.3%）、公安・治安維持（2.4%）となっている。2016 年度の防衛費への歳出は GDP の 4.7%。2018 年には 3%、2019 年度には 2.9%まで低下すると見られている。

先にロシアのニコライ・パンコフ副国防相は、下院・国家会議で「我々は、以前ソ連軍基地があったキューバやベトナムの基地返還問題を検討中だ」と伝えた。

<http://sptnkne.ws/cwfx>

メルケル首相、ドイツはロシアを米国より信用と告白

(スプートニク 2016 年 10 月 08 日 09:50)

© AP Photo/ Markus Schreiber <https://goo.gl/gdbXVY>

ドイツのメルケル首相は、大西洋横断貿易投資パートナーシップ協定（T T I P）の交渉をしながらドイツの企業家を批判し、反米主義を責めた。メルケル首相はベルリンで、「ドイツ産業の日 2016」での演説中でそう述べた。

メルケル首相は、米国との経済協力に対する自らの態度を見直すよう企業家に呼びかけ、次のように述べた。

「もしこれがロシアとの同様の協定の話だったなら、我われは今聞いているこの批判の半分も聞かなかっただろう。われわれはこのことについてよく考えるべきだ。」

先にドイツの副首相で経済大臣のジグマール・ガブリエル氏は、T T I Pに関する交渉は失敗に終わったと述べた。協定反対派は、T T I Pには欧州における制御緩和と規制措置緩和に賛成する多国籍企業の利益のみが反映されていると確信している。

<http://sptnkne.ws/cwfy>

ロシア議会：シリアでの露米衝突は不可能

(スプートニク 2016 年 10 月 08 日 10:53)

© Sputnik/ Alexander Astafyev <https://goo.gl/NQpvxf>

ロシア国家院（下院）のヴァチェスラフ・ヴォロージン委員長はシリアでの露米直接衝突はありえないと考えている。インテルファクス通信が報じた。ヴォロージン委員長は7日金曜日、次のように述べた。

「ロシアは平和を愛する国で、我われは平和を支持するためにすべてを行うと常に強調している。」

非友好的な策の声明の際は、第1に自らの国民のことを考える必要があると強調し「彼らの安全

は、あらゆる国家の義務であり、安全保障はあらゆる政治家、あらゆる国家機関の仕事での最優先事項だ」と説明した。ヴォロージン委員長は、全世界でのテロ攻撃防止が問題となっているため、テロとの戦いのためには諸国は団結し、力を合わせなければいけないと付け加えた。

<http://sptnkne.ws/cwf2>

半年で3万 5,000 人のテロリストがシリアで殲滅ーロシア防衛省

(スプートニク 2016 年 10 月 08 日 13:58)

Screenshot: Ministry of defence of the Russian Federation <https://goo.gl/Y05tTK>

シリアで、2 月 27 日から 9 月 1 日にかけて約 3 万 5,000 人のテロリストが殲滅され、うちほぼ 3,000 人がロシアと C I S 諸国からだったとし、ロシアのアナトリー・アントノフ国防次官が記者団に次のように述べた。

「結果、(シリアの) 586 の居住区と 12,360 平方キロが開放された。約 3 万 5,000 人のテロリストの殲滅。うち 2,700 人がロシアないし C I S 諸国出身だった。」

アントノフ国防次官によると、テロ組織ダーイシュ（イスラム国、I S）とアル＝ヌスラ戦線への攻撃続行は、2 月 22 日からの露米共同声明の項目の 1 つだった。

先にシリアのアサド大統領が、シリアの穏健反体制派というのは神話で作り話だと発言した。

<http://sptnkne.ws/cw5V>

ダーイシュ戦闘員、人道支援物資をシリアに運んでいたロシアの軍用ヘリ MI-8 を砲撃

(スプートニク 2016 年 10 月 08 日 23:50)

© Sputnik/ Ramil Sitdikov <https://goo.gl/3xaKtJ>

ロシアの軍用ヘリ MI-8 がシリアのハマ地方に人道支援物資を運んでいたところ、ダーイシュ（イスラム国、I S）戦闘員から携帯式防空ミサイルシステムにより砲撃を受けた。シリアの紛争当事者和解センターが報じた。上空高くを飛んでおり、乗組員がミサイルを早期発見し、卓越した操縦技術を発揮したおかげでミサイル直撃は避けることができたという。ヘリ機上にいたロシア軍人のうち負傷したものはいない。

<http://sptnkne.ws/cwtt>

北朝鮮：核の先制攻撃しない

(スプートニク 2016 年 10 月 08 日 23:54)

© Sputnik/ Marc Bennets <https://goo.gl/0GQrCq>

北朝鮮は核兵器を最初に用いないと、国連総会第一委員会のセッションで北朝鮮の代表が述べた。北朝鮮の国営通信「朝鮮中央通信」が報じた。

北朝鮮の代表は次のように述べた。

「我々の国は米国からの脅威のため自衛目的で核武装へのアクセスを得た。そして、主権が侵害されない限り核兵器を最初に用いることはない。」

さらに、北朝鮮代表は国連安保理による、「北朝鮮により核実験やミサイル発射が行われたとの非難を伴った、根拠のない声明や決議案」を批判した。

<http://sptnkne.ws/cw42>

防衛省、カリーニングラード付近へのミサイル移送を認める

(スプートニク 2016 年 10 月 09 日 00:17)

© Sputnik/ Alexei Danichev <https://goo.gl/SEPNNa>

国防省はロシア機動戦術ミサイル複合体「イスカンデルーM」をカリーニングラード付近へ移送させたとの情報を確認した。国防省の報道官であるイーゴリ・コナシェンコフ陸軍少将によると、戦闘準備の一環でカリーニングラード州を「ミサイル部隊は1度ならず移送したし、移送していく」という。

コナシェンコフ陸軍少将は、ロシア軍が貨物船「アムバル」での移送の際にわざと「イスカンデルーM」を隠さなかったと付け加えた。これは、米国の偵察衛星の性能をはっきりさせるためになされたという。

10月7日、ロイターは米国諜報筋をもとに、ロシアは「イスカンデルーM」をカリーニングラード州に移送させていると報じた。先に伝えられたところによると、ナショナル・インタレスト誌の専門家カイル・ミゾカミ氏が2030年までにロシア軍の装備となる最高の軍事装備のリストを作成した。

<http://sptnkne.ws/cwvv>

ドイツ外相：米国は世界の安全保障の唯一の保証人という役割を失ってきている

(スプートニク 2016 年 10 月 09 日 00:22)

© AP Photo/ Clemens Bilan <https://goo.gl/wP8Agr>

米国は世界の安全保障の唯一の保証人という役割を失ってきていると、ドイツのフランク=ヴァルター・シュタインマイヤー外相が述べた。シュタインマイヤー外相の次の演説をドイツ外務省は引用した。

「危機に陥った世界で、自らの国境を超えた場所での平和と安全保障に責任を持つ用意のある国の役割は重要だ。米国が 1 国でこの役割を果たす用意、もしくは能力がどんどん少なくなっているという感触がある。」

シュタインマイヤー外相は、ドイツにはこのような外交的責任を取る用意があると指摘した。

<http://sptnkne.ws/cwv4>

露外務省：米にはハッキングしたとしてロシア責める証拠が全くない

(スプートニク 2016 年 10 月 09 日 06:02)

© AP Photo/ Dmitry Lovetsky <https://goo.gl/hlHKnV>

ロシアのセルゲイ・リャブコフ外務次官のコメントに、「米国政治機関と個人にハッキング攻撃を行ったとの疑惑を持たれている」団体にロシア側が関与しているとの非難は立証されていないと述べられている。

リャブコフ氏によると、この問題に関する証拠基盤は「現在米国政府で明らかな政治的注文を遂行して、前例のない反ロシアヒステリーをエスカレートさせ続けている者によって考え出された」という。

また、ロシア政府は去年末から米国にサイバー空間における違法行為対策問題を協議するよう提案していたが、米国政府からの返答はなかったと指摘した。この数ヶ月でロシアは、米政治団体のコンピューターシステムへのハッキングに関与したとして 1 度ならず非難されている。

先に伝えられたところによると、ハッカーが、検索エンジンやメールなどのインターネット関連のサービスを提供する Yahoo! のユーザー 5 億人のデータを盗んでいたことが分かった。

<http://sptnkne.ws/cw6c>

専門家：ロシア国防省はシリアに関して米国に最後の警告をした

(スプートニク 2016 年 10 月 09 日 07:46)

© Sputnik/ Michael Alaeddin <https://goo.gl/t80EBg>

ロシア国防省はシリア政府軍への米軍の攻撃の結果について、米軍に「最後の警告」をしたと、地政学問題アカデミー長のコンスタンチン・シフコフ軍事学博士が述べた。ロシア国防省のイーゴリ・コナシェンコフ報道官が発表したところ、シリアに配備されているロシアの対空ミサイルシステムの計算は、ミサイルの軌道と、同国政府軍側への攻撃の際のミサイルの持ち主を明らかにすることはしない。将軍もまた、ロシアのフメイミム空軍基地やタルトゥース海軍基地は S-400 や S-300 ミサイルシステムにカバーされており、「これらの射程半径は飛行物体を認知しなかったあらゆるものにとってサプライズとなる可能性がある」と述べた。

シフコフ報道官は次のように述べた。

「この声明は、システムはシリア軍を攻撃する機体を落としていくことを意味する。声明には、我々は誰のミサイルが飛んでいるかを識別していかないとはっきり書かれている。つまり、『誰の機体が飛んでいるかを識別しない』と考えていただきたい。これは最後の警告だ。」

<http://sptnkne.ws/cw5j>

ロシア政治家：トランプ氏の考えは親ロシア的とは考えられない

(スプートニク 2016 年 10 月 09 日 11:51)

© AFP 2016/ Michael B. Thomas <https://goo.gl/CqPgfE>

新たな米国大統領になるのが民主党代表だろうと共和党代表だろうと、「親ロシア」的になることはないとし、ロシア下院国際問題委員会のレオニード・スルツキー会長がテレビ局「ロシア 1」のインタビューで次のように述べた。

「私たちには反ロシア的ヒラリー・クリントン氏と、ほぼ親ロシア的なドナルド・トランプ氏がいるなどという何かしらの幻想を抱く必要はない。彼らは双方とも親米だ。」

スルツキー氏は「トランプ氏はこの数週間で他の選挙グループと共演し、ロシアとはおそろくなんらかの建設的な関係を築くことができると示した」と指摘した。しかし、「親ロシア的トランプ氏」という幻想を抱くのは「無論必要ない」と述べる。クリントン氏は、トランプ氏が米国の利益を犠牲にロシアにあまりに良く接していると主張している。

<http://sptnkne.ws/cw6q>

オバマ政権がアル＝ヌスラ戦線の庇護者として歴史に名を残さないよう望むーラヴロフ外相

(スプートニク 2016 年 10 月 10 日 09:43)

© Sputnik/ Maksim Blinov <https://goo.gl/5j3BSb>

ロシアはオバマ政権がテロ組織アル＝ヌスラ戦線を強化し保護した政権として歴史に名を残すことを望まない。モスクワはワシントンがその戦闘員らを売り買いしていることを奇妙に感じている。ラヴロフ外相が述べた。

「この話の当初我々は西側の同僚たちがアル＝ヌスラ戦線には手を振れないと言っていた。我々は国連決議に記された通りのことをしている。和平は和平であるが、それはアル＝ヌスラ戦線および和平の対象にならない者およびそれと団結する者には及ばない。米国は非常に奇妙なふるまいをしている。」第1チャンネルのインタビューで述べた。

外相は、「ロナルド・レーガン政権がアルカイダを創り出したのに続きジョージ・ブッシュがダーイシュ（IS）を創り出した。オバマ政権がアル＝ヌスラ戦線という名のテロ組織を強化し保護した政権として歴史に名を残さないよう願う」と述べた。

<http://sptnkne.ws/cwCd>

日本外務省 ロシアと「2島先行返還」も排除せずに交渉する可能性を発表

(スプートニク 2016 年 10 月 09 日 21:01)

© Sputnik/ V. Kiselev <https://goo.gl/0YfG1i>

日本の外務副大臣を務める岸信夫氏は、ロシアとの領土問題について、「歯舞と色丹2島の先行返還」も排除せずに交渉を進めていく考えを示した。日本テレビが報じた。

岸副大臣は日本テレビの単独インタビューで、歯舞と色丹の2島引き渡しを先に進めていくことも選択肢の一つか？との問いに、「できるだけ広いオプションの中で解決策を見いだしていく。原則論だけで言っていてはまとまってこなかったというのがこれまでの歴史だと思う。これまでの膠着した状況が続くということは、やはり適切ではないと考えている」と述べた。日本テレビが報じた。

また日本TVによると、岸副外務大臣は、南クリル諸島に暮らす約1万7,000人のロシア人の居住権を認めることを検討する考えを示し、「我々の要望だけを100%通す交渉は成立しない」と述べたという。

<http://sptnkne.ws/cwDk>

国連安保理 アレッポに関する決議案を一つも採択できず

(スプートニク 2016 年 10 月 09 日 21:26)

© AFP 2016/ Don Emmert <https://goo.gl/MpqHgJ>

国連安全保障理事会は 8 日、シリアのアレッポに関する決議案を一つも採択することができなかった。はじめにロシアがフランスとスペインの決議案に拒否権を発動し、その後、ロシアは自国の決議案を提出したが、過半数の票を獲得できなかった。

フランスとスペインがまとめた決議案では、アレッポ上空に飛行禁止区域を設定することが規定されている。ロシアは東部の上空のみならず、東から武装勢力の砲撃にさらされている西部の上空にも飛行禁止区域を設定することが提案されたため反対した。また決議案では、同措置が偵察用無人航空機にも関係するのかが否かが明らかにされていなかった。また、テロ組織「ジャブハト・アン・ヌスラ」の戦闘員撤退に関する国連のデミストラ特使の計画を支援するロシアの決議案も否決された。

<http://sptnkne.ws/cwEJ>

米国の哨戒機がクリミア周辺を飛行

(スプートニク 2016 年 10 月 09 日 22:26)

© AFP 2016/ GREG WOOD <https://goo.gl/kQQ39S>

米海軍の対潜哨戒機 P-8A ポセイドンが、クリミア周辺の偵察飛行を終えようとしている。軍用機の動きを追跡する西側諸国のサイトのデータが物語っている。サイトの情報によると、哨戒機は午前シチリア島のシニョネッラ空軍基地から飛び立ち、現在クリミア半島から南を偵察している。

最近ロシア国境近くでの米偵察機の飛行の集中度が高まっている。米偵察機はほぼ毎日のようにクリミア沿岸の近くや、シリアにあるロシアの基地周辺、また地中海東部のロシア海軍の軍艦が展開する辺りで確認されている。インターファクス通信が伝えた。

<http://sptnkne.ws/cwQY>

ラヴロフ外相：ロシアは長い間「耐えた」が今露米関係に抜本的な変化が生じた

(スプートニク 2016 年 10 月 10 日 00:04)

© Sputnik/ <https://goo.gl/7Wc9ZD>

ロシアのラヴロフ外相は、ロシアは非常に長い間米国の行動に対して「戦略的忍耐力」を発揮し

てきたが、今ロシアと米国の関係に抜本的な変化が生じたと述べた。

ラヴロフ外相は、第1チャンネルのインタビューで、露米関係で抜本的な変化があったという発言に対するコメントを求められ、「私が思うにこれは事実だ」と述べ、「正直に言うが、我々は非常に長い間、米国人が『戦略的忍耐力』と呼ぶものを発揮してきた。なぜなら米国側からの一方的な関係悪化は、ウクライナでの出来事が起こるずっと前から始まっていたからだ。我々はこのことについて話をした」と付け加えた。

またラヴロフ外相は、米国はロシアと「大人の」関係を築くことができず、米国の利益だけが考慮された2国間関係のオプションは機能していないと述べた。

ラヴロフ外相は、「ジョン・ケリー氏が米国務長官に任命された時、我々はこれについて話をし、双方が大人のやり方で関係を構築する必要があるとのことで合意し、この用語は子供っぽい侮辱なしに使われた。しかし誰もが上手くいっているわけではない」と語った。

<http://sptnkne.ws/cwFq>

日本 北極海でのロシアのガスプロジェクトへの参画を検討

(スプートニク 2016年10月09日 22:59)

© AFP 2016/ Kirill Kudryavtsev <https://goo.gl/SZtj1l>

日本政府は、北極海でのロシアの大規模ガスプロジェクトに日本企業を参画させる検討に入った。共同通信が伝えた。共同通信は、「日本政府が対ロシア経済協力の一環として、ロシア民間最大手のガス生産企業『ノバテク』が北極海で進める液化天然ガス（LNG）開発事業に日本企業を参画させる検討に入ったことが分かった」と報じた。

先にウラジオストクで開かれた東方経済フォーラムの場で、「ノバテク」のミヘリソンCEOは記者団に、日本の国際協力銀行（JBIC）が、LNG工場「アークティックLNG-2」の建設プロジェクトに株主としても参加する可能性があると述べた。

<http://sptnkne.ws/cwQZ>

ウクライナ外務省：キエフはミンスク合意を履行しない

(スプートニク 2016年10月10日 08:10)

© AFP 2016/ Sergei Supinsky <https://goo.gl/OsaUoE>

ウクライナは南東部における紛争の解決に関するミンスクの合意を実行するつもりはない。ドイ

チェヴェレのインタビューでウクライナのパヴェル・クリムキン外相が述べた。

インタビュアーのティム・セバスチャン氏は、ミンスク合意の主要項目であり、東部地域に自治権を与えるための憲法改革を議会が行わないことに欧米は失望している、と指摘。修正は昨年未までに行われるはずだった。「ミンスク合意は死んだのか？」と氏が問うとウクライナ外相は「もちろん違う」と述べた。

ロシア 24 によると、ジャーナリストはウクライナ当局は「前進していない」と述べた。「あなたは義務を履行していない」。対して外相は「私たちは今のところ前進させるつもりがない」と述べた。

先の報道では、ロシア国防省のイーゴリ・コナシェンコフ報道官は、ウクライナ側がドンバスで起きたMH17 機墜落の全体像に関する、この大惨事の全体像を特定する助けになるであろう情報をわざと隠していると発言した。

<http://sptnkne.ws/cwRa>

米国連大使：ワシントンは北朝鮮孤立に最善を尽くす

(スプートニク 2016 年 10 月 10 日 12:17)

© AFP 2016/ Bryan R. Smith <https://goo.gl/6U43CS>

ワシントンは核開発を進める北朝鮮を孤立させるために国連安全保障理事会の枠組み外で利用可能なすべての手段を使用する準備ができている。サマンサ・パワー米国連大使が韓国訪問中に語った。

「利用可能な方法の一つには安全保障理事会決議も入るが、我々はこの深刻な脅威へ対応するために利用可能なすべての手段を使う。政権孤立化のために他の国を説得するべく外交圧力も使う」。ロイターが伝えた。米軍の力を遣うことも北朝鮮抑止につながるだろう、と同氏。

<http://sptnkne.ws/cwSw>

クリントン氏、アレッポ破壊の意図的な試みでロシアを非難

(スプートニク 2016 年 10 月 10 日 15:01)

© AFP 2016/ Brendan Smialowski <https://goo.gl/33koVC>

米大統領線の民主党候補ヒラリー・クリントン氏はロシアを、アレッポを意図的に破壊しようとしているとし非難した。クリントン氏は、共和党候補ドナルド・トランプ氏との討論会で次のよう

に述べた。

「我々は毎日、アサド政権がイラン地上戦力とロシア航空戦力との協力のもとおそらく 25 万人とみられる人々が住んでいるアレッポなど、様々な場所を爆撃するのを見ている。アサド政権反対を維持している最後のシリアの反政府勢力を排除ためにアレッポを破壊しようとロシア航空軍が選択的に注力している。」

この数ヶ月、アレッポの情勢は急速に激化し、市内と周辺では厳しい戦いが続いている。米国はシリア政府とロシア政府を民間人と武装反政府勢力への爆撃で非難している。一方シリア政府とロシアは、テロリストにのみ攻撃を加えていると主張し、「穏健反体制派」がテロリストと離れるために影響を与える能力が欠けているとし、米国政府を非難している。

ロシア政府は、米国側のレトリックの「具体的でない性格」に一度ならず注目を向けている。ロシアのゲンナジー・ガチロフ外務次官が述べたように、シリアでの人道的悲劇は政治的目的推進のために利用されており、ロシアは容認できないと考えている。

<http://sptnkne.ws/cwTx>

米駆逐艦、イエメン沿岸でロケット弾攻撃を受ける

(スプートニク 2016 年 10 月 10 日 17:57)

◦ 写真: Public domain <https://goo.gl/yRWPIv>

米駆逐艦がイエメン沿岸の国際水域でロケット弾攻撃を受けた。ロイターがペンタゴン報道担当の情報をもとに報じた。同通信社によると、ロケットはフーシ派支配地域から発射されたとみられている。

米国防総省がロイターに発表したところ、攻撃による米駆逐艦の損傷はなく、負傷者や犠牲者の情報も入っていない。

イエメンでの軍事紛争は 2014 年から続いている。一方ではシーア派グループのフーシ派「アンサル・アッラー」の反政府軍と前大統領のアリー・アブドラー・サーレハに忠実な軍部が参加し、他方ではアブドラボ・マンスール・ハディ現大統領派の政府軍と民兵がいる。

先に伝えられたところでは、米海軍の最新ステルス駆逐艦 USS ズムウォルトが、浸水のため航海に出られなかった。

<http://sptnkne.ws/cwUq>

露大統領府 オランダ大統領とプーチン大統領の会談中止の可能性についての報道に答える

(スプートニク 2016 年 10 月 10 日 17:41)

© Sputnik/ Alexei Druzhinin <https://goo.gl/6yfVXd>

ロシアは、プーチン大統領のフランス訪問に向けた準備を続けている。ロシアのペスコフ大統領報道官が伝えた

ロシアのラヴロフ外相は6日、フランスのエロー外相とモスクワで会談し、プーチン大統領が10月19日にフランスを訪問してオランダ大統領とシリアおよびウクライナ情勢について話し合うと伝えた。

先にオランダ大統領はテレビ局TMC（グループTF1）のインタビューで、プーチン大統領との会談の有用性について修辭疑問を使った。

ペスコフ報道官は、オランダ大統領の発言へのコメントを求められ、「我々はこの件に関する公式情報を一切持っていない。プーチン大統領のパリ訪問に向けた準備は続けられており、エリゼ宮殿で会談が予定されている」と述べた。

<http://sptnkne.ws/cwXM>

韓国 北朝鮮への先制攻撃を準備

(スプートニク 2016 年 10 月 10 日 18:29)

© AP Photo/ Lee Jin-man <https://goo.gl/3z9bzI>

韓国は、北朝鮮を先制攻撃する用意がある。10日、韓国国防省のムン報道官がソウルで発表した。ムン報道官は、「北の核兵器使用が差し迫ったという兆候が捉えられた場合、自衛権（行使）の立場から先制攻撃できる」と述べた。連合ニュースが報じた。

同声明は、韓国で米国との5日間にわたる合同軍事演習「インビンシブル・スピリット2016」の開始を背景に発表された。演習は初めて韓国の全海岸に沿って行われる。かつて米韓軍事演習が地理的にこれほど広い範囲で行われたことはなかった。

北朝鮮は9月9日、国際社会が核兵器の放棄を呼びかけているにもかかわらず、5回目となる核実験を実施した。

<http://sptnkne.ws/cwYv>

10月13日の戦略対話で露日の代表者は何を協議するのか？

(スプートニク 2016年10月10日 19:01)

© Sputnik/ Maksim Blinov <https://goo.gl/BNyXB7>

ロシア外務省は、10月13日にモスクワでロシアのチトフ第1外務次官と日本の杉山外務事務次官による露日戦略対話が開催されることを確認した。

ロシア外務省が10日に発表した声明では、二国間関係の全包括的発展の展望や、予定されている高いレベルならびに最高レベルでの政治的コンタクトの準備が議論される見込みだと述べられている。

また協議では、アジア太平洋地域や中東の安全保障分野の状況や、地域および地球規模の問題を解決する上でのロシアと日本の協力の可能性について包括的観測を行うことが予定されていると指摘されている。

先に日本の岸田外相は、10月13日の協議ではロシアと日本の平和条約に関する問題にも触れられると伝えた。

<http://sptnkne.ws/cxaB>

北朝鮮には21発の原爆製造に十分な材料がある－米分析官

(スプートニク 2016年10月10日 19:05)

© AFP 2016/ Jung Yeon-Je <https://goo.gl/R1kl6B>

北朝鮮は次の4年間で100発の小型核弾頭からなる武器庫を作る可能性がある。今日韓国政府が発表した、カリフォルニア州に拠点を置く権威ある研究機関、米RAND研究所の専門家による報告書には次のように書かれている。

「最新の公開情報によると、北朝鮮はすでに13発から21発の原子爆弾製造に十分な核分裂性物質を有している。この保有量は、2020年までに50から100発のこれらの兵器を製造するに足る。」

報告書には次のように指摘されている。

「4年から6年後、北朝鮮政府は地域での米軍のプレゼンスと対抗し、米国とその同盟国の鍵となる軍事基地の脅威となるためには十分多く、信頼のおける、そして多様な核兵器を持つことになる。」

先に伝えられたところによると、韓国は、北朝鮮を先制攻撃する用意がある。

<http://sptnkne.ws/cxaa>

複雑怪奇なシリア紛争、当事者ではなく、その背後に立つ者らの争い

(スプートニク 2016 年 10 月 10 日 19:20 タチヤナ・フロニ)

© AP Photo/ Pavel Golovkin <https://goo.gl/G8rcvY>

シリア紛争の早期かつ完全な解決はこんにち、ぼんやりした兆しさえ行く手には見えない状態だ。にもかかわらず専門家らはシリアの将来を巡ってこれが一枚岩の国家として生き残るか、多少なりとも管理が可能な幾つかの部分に分かれるか、それともこの先も永遠に紛争地としてありつづけるか、様々な分析を行なっている。

シリア紛争はこれに加わる外交プレーヤーの数が多く、込み入っていることから、専門家らの多くはこの国の国境線が以前のラインに戻ることは決してないのではないかと予想している。シリアの戦線での戦いは紛争の直接的な当事者のものではなく、その背後に立つ者らの争いとなっている。まさに紛争を背後で操る者たちが自分たちの戦略的目的を果たすために戦闘員らを使っているからだ。その結果、この地域ではここ 5 年間でイスラム主義の組織とこれらが掌握した領域が強固に固められたことは全世界がはっきりと目撃している。

シリアの悲劇を 5 年以上にわたって演出しつづけている外交プレーヤーは誰か？それが支援する対象は？ 宣言している内容は何かについて、スプートニクはロシア政府付属金融大学、政治学のゲヴォルグ・ミルザヤン助教授にマイクを向けた。ミルヤザン氏はシリア紛争を操るプレーヤーでは特にサウジアラビア、ペルシャ湾沿岸諸国、トルコ、イランの存在が大きな役割を果たしているとして次のように語っている。

「サウジアラビアはつい最近までシリア紛争の火を焚きつけ、最も破壊的な役割を演じてきた。サウジはシリアの内戦をある種、イランに対抗する周辺部の戦争と位置づけていた。サウジは欧米、トルコ、クルドなどイランに対抗するための戦いにとにかくあらゆる人間をここへ引き寄せたいとしていた。これはサウジにとってはイランがペルシャ湾岸の南部、南西部、つまりパレスチナ方面へと拡張するのを抑止する方策だったのだ。まさにサウジがシリアのイスラム主義武装戦闘員のかなり多くに資金を渡している。それはイスラム主義者らがアサド政権に対抗する闘いを続け、戦争が出来るだけ長引くようサウジにとって好都合だからだ。この戦争が長引けば長引くほど、イランは手持ちの資金を費やさざるを得ず、サウジはますます枕を高くして眠れることになる。トルコはアサド政権が転覆すればトルコはシリアに親トルコのスニーク派政府を獲得できるという一種の保証となると考えていた。トルコはトルコ型の国家モデルと輸出できるのではないかと期待を寄せていたのだ。もちろんトルコはイランとの間にはサウジ対イランのような争いは抱えていなかった。だがトルコも 10 年後にはイランは自分のライバルとなることは重々理解していたのだ。オスマントルコ帝国にとっては中東は常にあまりに

手狭だった。」

こうした一方でここ最近、多くはテロとの闘争におけるロシアの支援に起因してシリアにおける外交プレーヤーの目的に変化が生じており、プレーヤーらは昔ほど直接的には自国の路線を追及していないとして、さらに次のように語っている。

「ポジションはトルコがシリアのことでロシアと大喧嘩をしてから実際非常に深刻な変化をとげた。だがこの事が起きたあとすぐにトルコは自分が孤立したことをまざまざと知ったのだ。つまりトルコは対露関係を欧米への圧力を講じるハンドルとして使う可能性を逸したのだ。欧州はトルコの立場が弱まったことを察知し、トルコに激しく圧力をかけ、欧州が必要とする解決を得ようとし始めた。欧州は移民問題でトルコの期待に応えず、米国もクルド人問題でトルコの期待を裏切った。エルドアン大統領は自分が熱を入れすぎたことを悟り、対露関係の正常化を開始し、シリアに対しても正常化しはじめた。と、そうしたときにトルコでクーデター騒ぎが持ち上がった。これはロシアの状況が関係したものではなく、前もって準備されていたものだ。だがこのクーデターが起きたおかげでエルドアンは、頼りにしていたのは他ならぬロシアであってロシアとなら手を組めるが米国は自分を裏切るという思いを強くしたのだ。」

この後トルコはアサド体制に対する関係正常化プロセスを開始した。トルコはそれまでのアサドは交渉の相手ではないとしてきたが、こうした立場は消えうせた。トルコは依然としてシリアのいくつかの武装組織には武器、資金を注ぎ続けているが、シリアの紛争地域にロシアの軍用機を撃墜できるようなハイテク武器を供給することはおそらくもうしないだろう。エルドアン大統領は十分知恵が回るため、新たな罠にはまり、またもや孤立状態になることはない。

ミルヤザン氏は、サウジアラビアの今の状態はそれよりずっと複雑化しているとして、さらに次のように語っている。

「サウジは今ロシアとイランの関係に楔を打ち込もうと躍起になっている。と同時に、ロシアがイランの完全な同盟国にならぬようにロシアとの関係も改善しようと試みている。サウジはこの状況で米国のハイテク武器を武装戦闘員に売ってはならないことを理解している。なぜならそうした武器によってロシアの軍用機が撃墜された場合、この数ヶ月でロシアとサウジの間で達成されたことの全てが瓦解してしまうからだ。それにはロシア製武器のサウジ同盟諸国への供給も石油取引も含まれている。」

いずれにせよシリア政権は新たな問題とは直面する。それは地理的な分割と異なる宗教間の軋轢である。このほかにもロシア、米国、国連安保理といった主導的力の保証は依然として欠かせない。ロシアを含め、大多数の主要なプレーヤーのポジションは、交渉プロセスを延期し、状況が多少好転するまで待つというものだ。現段階で一番大事なのはこの地域における急進主義のこれ以上の拡大を防ぎ、テロと流血の惨事のない、多少なりとも平和な生活を取り戻すことにある。

<http://sptnkne.ws/cwZt>

専門家：米国はアサド氏と直接対決を始める可能性がある

(スプートニク 2016 年 10 月 10 日 20:21)

© REUTERS/ SANA <https://goo.gl/0id89W>

米国のシリア和平におけるロシアとの協力停止という決定はシリア政府軍の公然たる攻撃の開始というワシントンの意向を証明している。国防省国際条約局の元局長エヴゲーニイ・ブジンスキイ氏がスプートニクに述べた。

これはシリア停戦体制維持のために樹立されていたロシアとの二国間連絡チャンネルへの参加を停止するというカービー国務長官の声明へのコメントだ。

「この決定の後で米国がアサド軍の攻撃を始め、我々が反体制派を攻撃し続けるということが十分現実的になった。しかし過激な緊迫化、ましてやロシアと米国の軍事紛争などはないと思う。もはやなんでもありになっているが、ワシントンがモスクワに対するレトリックを強硬化することに疑いはない」と専門家。

<http://sptnkne.ws/cxcr>

プーチン大統領、トルコ及びベネズエラ大統領との会談のためイスタンブール入り（動画）

(スプートニク 2016 年 10 月 11 日 05:02)

© REUTERS/ Murad Sezer <https://goo.gl/7idCac>

プーチン大統領は世界エネルギー会議の特別会に参加しトルコのエルドアン大統領およびベネズエラのマドゥロ大統領と階段するためイスタンブール入りした。

twitter.com/ <https://goo.gl/39aJEi>

世界エネルギー会議はイスタンブールで9～13日開催。プーチン大統領はマドゥロ大統領と両国関係発展について個別に話し合う予定。

<http://sptnkne.ws/cxmG>

プーチン大統領：ロシアは日本への天然ガス輸出を活発に拡大する意向

(スプートニク 2016 年 10 月 10 日 22:44)

© Sputnik/ Aleksey Druzhinin <https://goo.gl/3Ghsqt>

プーチン大統領はトルコのエルドアン大統領と、石油パイプライン「トルコ・ストリーム」建設

について話し合い、両大統領共にプロジェクトを現実化させる意向だ。プーチン大統領が、第 23 回世界エネルギー会議で発言した。プーチン大統領はまた、「ロシアは中国、日本、インドといった東方への天然ガス輸出を活発に拡大する意向だ」と述べた。

先に伝えられたところ、日本政府は、北極海でのロシアの大規模ガスプロジェクトに日本企業を参画させる検討に入った。

<http://sptnkne.ws/cxgm>

エストニア新大統領、ロシア語で喋ると約束

(スプートニク 2016 年 10 月 11 日 05:04)

© REUTERS/ Ints Kalnins <https://goo.gl/mFKcEX>

エストニアの新しい大統領ケルスティ・カリユライド氏は、同国に居住するエストニア人とロシア人は一つのコミュニティのメンバーだとし、次のように述べた。

「私たちは 1 つのコミュニティだと信じる。私たちはみんなエストニアに住むものだ。私達の違いではなく、私達を 1 つにするものに集中すべきだ。」

カリユライド大統領はまた、ロシア語話者の住人には彼らの母語で交流する意向だとも述べた。ケルスティ・カリユライド氏はエストニア初の女性大統領となった。カリユライド氏は 10 日月曜日に議会で宣誓し、その後、正式に国家元首に就任するという。

<https://goo.gl/6af1jj>

プーチン大統領、原油採掘制限の決定にロシアも迎合の構え

(スプートニク 2016 年 10 月 11 日 05:15)

© Sputnik/ Aleksey Druzhinin <https://goo.gl/NXRSNY>

プーチン大統領は 10 日、イスタンブールの世界エネルギー会議で石油市場の安定を維持するために必用な採掘の凍結ないし縮小の決定にロシアも迎合する構えであることを明らかにした。プーチン大統領は「こうした状況で、原油採掘の凍結ないし縮小は、世界のあらゆるエネルギーの堅実性を維持するためにはおそらく唯一の正しい解決法だろう」と述べ、これによって市場バランスの回復が早められるとの見方を示した。

<http://sptnkne.ws/cxgS>

元ソ連大統領 米露に信頼関係の回復を呼びかける

(スプートニク 2016 年 10 月 11 日 07:49)

© AFP 2016/ Vitaly Armand <https://goo.gl/Lxwh02>

ゴルバチョフ元ソ連大統領は、露米関係では相互信頼が崩壊したと述べ、両国に核のテーマを含むあらゆる議題の交渉を再開するよう呼びかけた。

ゴルバチョフ氏は、「露米関係は現在悪化し、緊張している。相互信頼の崩壊が起こった。私は地域問題に引きこもらずに、あらゆる議題の交渉を再開する必要があるとの考えを一度ならず述べてきた。まずは核問題についてだ」と語った。

またゴルバチョフ氏は、「世界は危険なラインに達した」と述べ、「具体的な処方箋」は出さないが、国際社会は立ち止まり、対話を再開する必要があると指摘した。

ゴルバチョフ氏はまた、核兵器削減、テロとの戦い、環境災害の防止を両国の優先事項として挙げた。

<http://sptnkne.ws/cxsy>

プーチン現象、ロシアの現象

(スプートニク 2016 年 10 月 11 日 06:49 エフゲーニヤ・モイセーエワ)

© Sputnik/ Sergey Guneev <https://goo.gl/QHcpoA>

ここ数年、西側の社会調査でよく取り上げられるテーマとなっているのがロシアのエリートの研究だ。2011 年から 2012 年、ロシア中を抗議行動の波が駆け巡ったがロシアはこれに「ニエット (NO)」を突きつけ、旧ソ連の共和国で起きたようなカラー革命はついぞ起こることはなかった。そしてこれにすぐに続いたのがウクライナのクーデターで、この組織には急進的な国粋主義者らが力を貸した。これらの事件に西側が関与したことについては多く語られており、西側世界の国益とロシアの国益の衝突があるのはここでは実際ははっきりしているが、それでもロシアが引くことはなかった。

これが理由でロシアへの圧力を強めようと、対露制裁が発動された。これでロシア国民は生活が困窮するかと思われたが、結果は国民と権力の連帯を強めただけに終わった。まあ、さすずめ「ロシア魂はなんとも不可解」というところだろうか。

9 月末、米国の放送管理委員会 (Board of Broadcast Governors、略称 B B G) は 15 万ドルを支払い、オックスフォード大学にロシアとトルコのエリーの調査を依頼した。この情報は米国政府の国家の購入リストを掲載したサイトに載せられている。ロシアのエリートについては社会学的調査

を通じて行なわれる計画で調査は来年 2017 年の春には終了する。今年の 5 月、これに類似した調査の結果が米国のハミルトン・カレッジによって公表され、2013 年 8 月、ユーラシア学研調査および安全保障への新アプローチプログラム (PONARS Eurasia) も調査を行なっているが、いずれもロシアのエリートは多くの注意を集めている

西側の調査の興味を惹いているのはプーチン氏の驚くほど高い支持率（プーチン氏はすでに数年にわたって支持率 80%以上を維持）とロシアの一般の有権者のエリートに対する姿勢だ。現在の路線、体制が支持されていることを直接的に物語るのは 9 月の下院選挙で「統一ロシア」党が 54%を越す票を獲得し、圧勝した事実もそうだ。

このことから、国民の目から見て何がエリートを確認とした揺るぎのないものとしているのか、これを解明する必要がある。これに取り組んだのがロシアの社会学センター「クルィシュタノフスカヤ・ラボ」の調査員たちだ。

センター長のオリガ・クルィシュタノフスカヤ氏は 1989 年からロシア科学アカデミー社会学研究所のエリート研究センターを率いている。彼女は「統一ロシア」党の党員であったが、2012 年、党を一時脱退し、しかもこれからは野党の研究にシフトすると宣言した。ΦΟΤΟ

「ロシアの社会エリート」をテーマにクルィシュタノフスカヤ氏の行なった調査の結果は 10 月 7 日、本人が「ロシア・セヴォードニャ」（「スプートニク」）で行なった記者会見で明らかにされた。

こうした調査が実施された例はロシアでも外国でも過去にはない。「社会エリート」というテクニカルタームについてここで説明しておく必要がある。「エリート」という表現は社会学、政治学では国家ないし経済をコントロールする高いポジションを占める特定の人物らとして理解されている。ところが社会エリートはごく一般の市民がエリートとして尊敬する人々を指している。

この社会学、政治学でいうところの「エリート」と「社会エリート」の違いはクルィシュタノフスカヤ氏の調査の第 1 段階ですでに現れた。世論調査でエリートだとして回答者が挙げたのは政権側の人間、役人、公務員が 56%、お金を持っている人、つまり裕福な人間、ビジネスマンが 34%、名誉を手に入れている人、つまり有名人、スター、ショービジネス界、スポーツ界、TV 出演者が 30% だった。しかもこのグループには不誠実、汚職、モラルの低さなどネガティブな側面が特徴として挙げられている。特に政治家にこうした粗暴な性格付けがなされた。

調査の第 2 段階では「あなたにとってはどんな人物が真のエリートでしょうか？」という問いかけがなされた。これに対し 47%の回答者が教養の高く、才能あり専門的な人と答え、34%がロシアのために貢献している人、17%が非常に道徳的に高く、誠実さと善良さといった性質を有している人、10%がロシアの精神性の復興に清、ロシア語をも含め、伝統を維持している人と答えている。

だが一番意表をついたのは三度目に行なわれた調査結果だった。三度目の調査では回答者には真のロシアのエリートとは誰か、名前を挙げるよう求められた。その結果、地域、年齢、性別をとわ

ず、いずれのカテゴリーでもダントツでプーチン氏が首位を占めた。2位にはロシア国防省のセルゲイ・ショイグ大臣とセルゲイ・ラヴロフ外相、3位には偉大な医師でメセナのレオニード・ロシャリ氏とレオ・ボケリヤ氏が、4位に入ったのは3人の文化人で映画監督のニキータ・ミハイルコフ氏、俳優でメセナのコンスタンチン・ハベンスキー氏、女優で社会活動家のチュルパン・ハマトワ氏、5位はドミトリー・メドヴェージェフ首相という結果がでた。

© Sputnik/ Alexei Druzhinin <https://goo.gl/Bw1JN6>

しかも調査で挙げられた50人の人物の中で最も数の多かった専門人集団は15人の政治家だった。調査を率いたクリシュタノフスカヤ氏は記者団の質問に答え、「一番私を驚かせたのはこんなにも政権が愛されているということでした」と語っている。

ロシアのことわざに「場が人を美しくするのではない。人が場を美しくするのだ」という文言がある。ショイグ氏を例にとれば、その政治キャリアで彼は様々な省を渡りあるいたが、非常事態省にいたときもやはり人気の高い政治家ランキングで高位を占めていた。まさにこうした人物らがヒーローとなり、今のロシアの政治体制の象徴となってゆき、またおそらく、体制の強い支持率の重要なファクターとしての役割も果たしていくのだろう。

※なお記事の中で述べられている見解は、必ずしも編集部の立場とは一致していません。

<http://sptnkne.ws/cxxh>

プーチン大統領、世界市場における原油の過剰を説明

(スプートニク 2016年10月11日 09:31)

© Sputnik/ Alexei Druzhinin <https://goo.gl/DDrMCn>

原油の供給過多と価格下落は採掘困難な原油の採掘方法確立と融資へのアクセスが容易になったこと、ならびに高い原油価格により一連の輸入国が採掘量を増大できたことにある。プーチン大統領がイスタンブールの世界エネルギー会議で述べた。

「今日の原油の供給過剰は何によるものか。答えは簡単、この十年の高い原油価格でエネルギー部門にかつてなく投資が集中した。採掘困難な原油を採掘する現代的な方法と融資へのアクセスが容易になったことで新たな、かつては採算性のなかった油田の開発が可能になった。このすべてが一連の輸入国に自前の採掘量を増大させ、結果的に原油の大幅な生産過剰と価格の急激な下落という状況に市場がぶつかることになった」と大統領。

<http://sptnkne.ws/cxxk>

原発利権を守る！ もんじゅ廃止でも核燃料サイクル継続とはこれ如何に？

(スプートニク 2016 年 10 月 11 日 10:45 徳山あすか)

© Flickr/ Ayumu Kawazoe <https://goo.gl/QxhFR5>

7 日、経済産業省は高速増殖炉「もんじゅ」に代わる高速炉の方向性を協議する「高速炉開発会議」の初会合を開催した。もんじゅの廃止は、年内にも正式決定される見込みだ。

もんじゅ廃炉に向けて 1990 年から活動している市民団体「ストップ・ザ・もんじゅ」の池島英紀子代表は、「長年もんじゅ廃炉に向けて取り組んできたので、廃炉がほぼ決定的になったことは、嬉しいことは嬉しい」としながらも、手放しでは喜べないと話している。

9 月末にも、もんじゅの件で関係閣僚会議が開かれた。そこではあらためて核燃料サイクル政策を堅持することと、オールジャパン体制で実証炉の開発を目指すことが確認された。実証炉とは、高速増殖炉の開発において、原型炉であるもんじゅの次の段階に位置するものである。

池島氏：「閣僚会議の資料を参照すれば、もんじゅを廃止しても従来の政策は変わらず、むしろより強固に組織を再編成して、実証炉開発を目指そうとしていることがわかります。関係者は本当に現実を見ていないと思います。もんじゅも、常陽（茨城県大洗町）も、使用済み核燃料の再処理も、プルサーマル計画も全て失敗して行き詰っているのですから、その現実に向き合えば核燃料サイクル政策を続けられるはずがありません。それなのにもんじゅの二の舞とも言える実証炉計画を、費用と時間をかけ、今からやろうとしているのです。」

なぜ、政府はここまで核燃料サイクル政策に固執するのか。今月 3 日には使用済み核燃料の再処理を担う新たな認可法人「使用済燃料再処理機構」が青森市に設立されている。このタイミングでの設立は、核燃料サイクル政策をあきらめないという国の強い姿勢を示すものだ。

池島氏：「政府が固執する理由は、三種類の人々の利権を守るためです。プルトニウムを扱う技術を捨てたくない人たち、原子力発電を続けて儲けたい人たち、そしてもんじゅを廃止し、次の実証炉開発で儲けたい人たちです。このうち原子力発電を続けてたい人は、もんじゅを続けて事故が起きてしまったら、原発推進の邪魔になると明言しています。また、再処理を続けることで、使用済み核燃料を青森へもっていくことができます。今までも彼らはそうやってきましたし、これからもそうしていきたいのです。もんじゅを続けて大事故を起こせば原発推進の邪魔になるというような発想は、国民の命や健康、安全という観点からの意見ではなくて、自分たちの利益しか見ていない発想です。原発利権を得る人たちにとっては、本当に次の実証炉開発を成功させて発電できるかどうかは、大事ではありません。失敗しても成功してもとにかく続けることで、時間稼ぎができ、莫大な利益につながります。私たちはもんじゅを廃炉にすることだけを唱えてきたのではなく、使用済み核燃料の再処理も中止せよと追求してきました。これからも『もんじゅを廃炉にするにも関わらず、なぜ再処理が必要なのか』ということを追求していきます。」

「ストップ・ザ・もんじゅ」は、近く新聞の意見広告を通し、核燃料サイクルの不必要性や原発の

危険性について訴える。全国から多額の賛同金が集まり、一面広告が出せるほどの金額になったということだ。

※なお記事の中で述べられている見解は、必ずしも編集部の立場とは一致していません。

<http://sptnkne.ws/cxxn>

露大統領報道官：クリル問題の解決で我々は正しい方向で進んでいる

(スプートニク 2016 年 10 月 11 日 17:26)

© Sputnik/ Alexey Kudenko <https://goo.gl/sKuAXG>

ロシアのペスコフ大統領報道官は 10 日、日本との領土争いの解決は忍耐と相互信頼を必要としていと述べ、正しい方向が選択され、楽観的になる理由があると指摘した。

ペスコフ報道官は記者団に、「領土紛争については、大きな忍耐が必要とされ、段階的なアプローチが必要とされ、そして重要なのは、貿易・経済関係が発展する時に生まれる相互信頼の面での信頼できる基盤が必要とされていることだ。

我々は非常に正しい方向で進んでおり、楽観するための理由がある。しかし、まさにどのような形で達成するのかを今はまだ誰も述べることはできない」と語った。

先に伝えられたところでは、日本政府は、すべての日本市民の南クリル（北方領土）4 島へのビザなし渡航の可能性について、ロシアとの間で合意する意向だという。

<http://sptnkne.ws/cx2R>

ドイツ シリアに関するロシアとフランスの決議案の「結婚」を提案

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 05:30)

© Flickr/ Mitchell_Center <https://goo.gl/TtWxIB>

ドイツ外務省は、シリアに関する国連安全保障理事会の 2 つの決議案を組み合わせることを提案した。ドイツ外務省のシェブリ報道官が発表した。

シェブリ報道官は、「これは 2 つの案を『結婚させる』可能性を見つけ、国連安保理で支持を得ることのできる一つの案にし、我々が遂にシリアの地獄に終止符を打つことができるようにするためのものだ」と述べた。

8日、ロシアは国連安保理常任理事国の拒否権を発動し、シリアのアレッポ状況解決に関するフランスの決議案は否決された。

<http://sptnkne.ws/cx5s>

韓国、竹島近くの島に海兵隊配置へ

(スプートニク 2016年10月12日 04:58)

© AP Photo/ Seo Myung-gon <https://goo.gl/9KR881>

韓国海兵隊司令部は11日、竹島から西に約90キロにある韓国料の鬱陵島（ウルルンド）に、2018年から海兵隊を巡回配置すると、国会国防委員会への業務資料で報告した。産経新聞が報じた。

韓国メディアによると、配置される兵力は既存の部隊で中隊か大隊の規模になると見られている。韓国は鬱陵島への兵力配置を進めていたが、計画が明らかになったのは初めて。配置は主に北朝鮮への圧力だが、竹島をめぐり日本を牽制する狙いともみられる。

<http://sptnkne.ws/cx5a>

ロシア国防省、シリア正常化で米国との作業の構え

(スプートニク 2016年10月11日 17:32)

© AP Photo/ Wong Maye-E <https://goo.gl/iQHQP9>

ロシアは断固としてシリア紛争の軍事的解決はありえないと確信しており、シリア紛争の正常化に向けて米国および他の西側諸国との作業を行う構え。ロシア国防省のアントノフ次官は北京での記者会見でこうした声明を表した。

アントノフ国防次官はまた、露米の合意にそって米国は穏健反体制派とテロリストの線引きを行い、カステッロの道路の封鎖を解かねばならなかったことを指摘している。

「我々は米国の同僚らに我々はどこに位置すべきか、またはどこにいてはならないかを幾度もたずねてきた。ところが相手はいつも黙って何も言わなかった。それだけではない。アサド体制の航空隊を空から下ろし、しかもロシアの航空宇宙軍もシリアでは戦わないよう強いられた。2つめはカステッロだ。もともとは人道援助物資をアレッポに運ぶためカステッロの道から政府軍と穏健反体制派の軍を同時並行で撤退させることになっていた。シリア政府は9月15～16日、二度、この撤退を試みた。だが米国は、穏健反体制派に政府軍に倣うよう説得できなかった。ロシアは断固としてシリア紛争の軍事的解決はありえないと確信している。政治的野心をすべて捨て、交渉のテーブルにつかねばならない。米国政権側がこれを早く理解すれば、国際社会はより早く勝利するのだ。こ

うした作業であるならば米国および他の西側諸国との作業を行う構えだ。」

<http://sptnkne.ws/cx7y>

クリル諸島で古代の日本の石碑発見、研究者（写真）

（スプートニク 2016 年 10 月 11 日 17:59）

© Sputnik/ Aleksey Nikolskyi <https://goo.gl/In9984>

クリル自然保護区の科学スタッフは、少クリル列島のユーリ島での動物学探検調査の際、漢字が刻まれた古い仏教の石を発見した。通信社「デイタ」が報じた。

石碑はシローカヤ湾南部の丘斜面にあり、太平洋を向いていた。石碑の高さは 180 センチで幅は 50 センチ。太平洋を向いている「表」側には 5 文字の漢字が掘られてある。スタッフは、発見された石碑は、少クリル列島に定住者が現れた 19 世紀末から 20 世紀初め、ユーリ島に移住してきた者により設置されたと仮定している。

写真 <http://kurilskiy.ru/newspost/679>

もりたせいじ博士によると、この石は葬祭儀式の一部だという。同博士は、石の文字は、「馬」「頭」「観世音」という 3 つのグループに分かれており、全体では、江戸時代の馬の鎮魂を意味するという。当時、馬は神聖な動物だと考えられていた。

自然保護区スタッフによると、発見物の歴史考古学的価値は議論の余地がなく、保護を必要とする。

先に伝えられたところでは、露大統領報道官は「クリル問題の解決で我々は正しい方向で進んでいる」と述べた。

<http://sptnkne.ws/cx65>

プーチン大統領、将来のロシアとトルコ関係を語る

（スプートニク 2016 年 10 月 11 日 18:10）

© Sputnik/ Alexej Druschinin <https://goo.gl/BG53tI>

ロシア・トルコ政府間委員会は二国間関係の完全な回復に向け力を注ぐとし、プーチン大統領が月曜日イスタンブールで、エルドアン大統領との会談の結果として次のように述べた。

「我々はこれからも関係の完全な正常化に向けて努力していき、近い将来、政府間委員会がこれに取り掛かるということで合意した。この作業へのロシアの関心をはっきりさせたい。」

プーチン大統領とエルドアン大統領は、全方向での協力回復の意向だと発言した。特に、ロシア側が段階的に特別な経済対策とトルコ企業への制限を撤廃するよう確認され、石油パイプライン「トルコ・ストリーム」やアックコ原子力発電所計画の凍結も解かれた。さらに、チャーター便を再開し、2国間のビザ制度問題を解決するとの決定も取られた。トルコがNATO加盟諸国なのに関わらず、エルドアン大統領は、トルコ政府が防衛産業分野でロシア政府と協力する用意があるとも述べた。

ロシアとトルコの関係は、トルコのF-16戦闘機がシリアでロシアのスホイ24爆撃機を撃墜し、緊急脱出したパイロットのオレグ・ペシコフ氏が地上から銃撃されて死亡した昨年11月に著しく悪化した。プーチン大統領はこれをテロリストの共犯者らによる「背信行為」だとし、トルコに対して一連の制裁を発動した。

その後、アルパルスラン・チェリクがパイロット殺害に関与したとの声明を表した。4月初旬、チェリク容疑者はトルコのイズミルで武器の不法所持容疑で逮捕された。容疑者は取り調べで、ペシコフ氏を銃撃したのは自分ではないが、戦闘グループの司令官としてその責任を負ったと主張した。イズミル検察庁は、「証拠不十分」としてチェリク容疑者に対するペシコフ氏殺害の訴追を取り下げたが、6月27日に予審判事が審理を再開した。

また27日、トルコのエルドアン大統領がプーチン大統領に書簡を送り、スホイ24型機の撃墜について謝罪し、パイロットの家族に哀悼の意を表したほか、トルコはロシアとの関係が損なわれるのを望んでいないことが明らかとなった。

<http://sptnkne.ws/cx7T>

プーチン大統領 オランダ大統領との会談を拒否

(スプートニク 2016年10月11日 22:13)

◎ REUTERS/ Philippe Wojazer <https://goo.gl/gK2TBm>

ロシアのプーチン大統領は、10月19日に予定されていたフランス訪問を拒否した。BBCが非公式情報筋の話として報じた。フランス訪問では、プーチン大統領とオランダ大統領の会談が予定されていた。10日、オランダ大統領がプーチン大統領との会談を拒否する考えであることが明らかとなった。なおその後、ロシアのペスコフ大統領報道官は、ロシア大統領府は会談の準備を続けており、フランスからは会談中止の通知を受けていないと述べた。

<http://sptnkne.ws/cx5J>

メルケル首相、「ノルマンディー4者」を夕食会に招待

(スプートニク 2016 年 10 月 11 日 22:38)

© AP Photo/ Markus Schreiber <https://goo.gl/3ZTGbN>

ウクライナ和平を話し合うロシア、ドイツ、フランス、ウクライナの首脳による「ノルマンディー4者協議」が10月19日、メルケル独首相の招待によりベルリンで開かれる。

火曜日、駐仏ロシア大使アレクサンドル・オルロフ氏がラジオ Europe1 の放送中に述べた。

19日ベルリンで協議が開かれることは、月曜日フランス外務省が発表していたが、独首相報道官のウルリケ・デメル氏が同日、ドイツ政府には19日に「ノルマンディー4者協議」を準備しているとの情報はないと述べた。

なお、ウクライナのパヴェル・クリムキン外相は先日のドイチェヴェレからのインタビューに答えたなかで、ウクライナは南東部における紛争の解決に関するミンスクの合意を実行するつもりはないと表明している。

<http://sptnkne.ws/cx8y>

マスコミ：中国は南シナ海の諸島用にポータブルな原子炉を開発している

(スプートニク 2016 年 10 月 11 日 19:42)

© AFP 2016/ STR <https://goo.gl/mnmrkL>

中国の学者たちは持ち運び可能な原子炉を開発しており、将来的に南シナ海に浮かぶ諸島の1つに配置される可能性がある。サウスチャイナ・モーニング・ポストが報じた。

同紙によると、学者たちは持ち運び可能な高速中性子炉を開発している。また、サイズは長さ6.1メートル、高さ2.6メートルのコンテナに収容できるようなものになる可能性がある。予定されている出力は10メガワットになる可能性があり、それは5万棟の家の電気エネルギー供給に足りる。

学者たちによると、1つ目の原子炉は5年の間に完成すると彼らは期待している。また、また同紙は、このような原子炉の安全性は多くの専門家の間で懸念を引き起こしていると指摘した。

先に伝えられたところによると、中国は日本に「火遊び」をしないよう呼びかけた。

<http://sptnkne.ws/cx8Y>

フィリピン大統領、日本訪問後にロシア訪問の可能性と声明

(スプートニク 2016 年 10 月 11 日 19:52)

© AP Photo/ Aaron Favila <https://goo.gl/V9zb98>

フィリピンのドゥテルテ大統領は火曜日、日本訪問後にロシアを訪れる可能性を除外しないと述べた。西側メディアが報じた。ドゥテルテ大統領が同国議会で演説をした際に述べた次の言葉をメディアが報じた。「私は日本に行く。そして、ロシアを訪れることができる可能性もある」。ドゥテルテ大統領の日本訪問は 10 月 25 日から 27 日に予定されている 10 月ドゥテルテ大統領はブルネイと中国も訪問する。

<http://sptnkne.ws/cxUK>

「トルコ・ストリーム」は 2 本同時に運用開始の可能性

(スプートニク 2016 年 10 月 11 日 20:54)

© 写真: TurkStream <https://goo.gl/Gs82fm>

ロシアとトルコは「トルコ・ストリーム」計画の政府間協定の枠内で、2019 年 12 月 30 日に石油パイプラインを 2 本同時に運用開始すると合意した。露紙コメルサントが報じた。

同紙が指摘するところ、文書にはそれぞれ年間 157 億 5,000 万立方メートルを輸送する能力があるパイプラインを 2 本建設すると書かれているという。1 本はトルコの消費者用で、2 本めは南欧州への天然ガス輸送用だ。

同紙によると、「トルコ・ストリーム」が稼働を開始したあと、現在トルコへの経由を行っているウクライナの天然ガス輸送システムは年間 140 億から 150 億立方メートルの天然ガスを失うという。同紙情報筋によると、建設開始は 2018 年を予定している。関連のニュースはこちらから。

<https://goo.gl/46mI2s>

<http://sptnkne.ws/cx9Y>

露国防省：韓国への THAAD 配備は南北紛争の解決を妨げる

(スプートニク 2016 年 10 月 11 日 20:50)

© Flickr/ U.S. Missile Defense Agency <https://goo.gl/xl8Ij0>

米国のミサイル防衛システム (MD) 「THAAD」の韓国への配備は、朝鮮半島情勢解決の障害をつくり出している。ロシア国防省のアントノフ次官が、安全保障に関する第 7 回香山フォーラ

ムで述べた。

アントノフ次官は、ロシアは北朝鮮のミサイルや核の野望を受け入れることはなく、北朝鮮に国連安全保障理事会のしかるべき決定を厳格に履行するよう主張していると強調した。

アントノフ次官は、次のように語った—

「韓国にMD『THAAD』を配備するという米国の決定は、地域の緊張の悪化や、朝鮮半島のすべての問題の解決に向けて更なる障害をつくり出す危険性をはらんでいる。韓国における米国のMDシステムの稼働は、明らかに『北朝鮮の脅威』を抑止する課題を超えている。」

さらにアントノフ次官は、次のように付け加えた—

「MD問題が地域のみならずグローバルな性格を有していることを強調したい。MDに関する米国の計画実施は戦略的安定性を損ね、核軍縮分野をはじめとした核拡散防止条約に基づく義務履行の見込みにネガティブに影響するだろう。」

<http://sptnkne.ws/cxBe>

米国がMDシステムを作った理由がロシアで挙げられる

(スプートニク 2016 年 10 月 11 日 20:58)

© Sputnik/ Mikhail Fomichev <https://goo.gl/tTMWs2>

米国がMDシステム創設を決定したのはイランとも北朝鮮とも関係ない。ロシア軍総司令部即応部の第1副主任ヴィクトル・ポズニhil少将がブリーフィングで述べた。

ポズニhil少将によると、北朝鮮は現在、長距離弾道ミサイル製造の可能性を誇示しているだけだ。また、イランの核合意締結の後に、同国からのミサイルの脅威を語るのは全く不適切だともポズニhil少将は付け加えた。しかし、ポズニhil少将が強調したところ、米国はMDシステム拡大を続けている。

ポズニhil少将によると、世界的な米MDシステム創設の真の目的は、ロシアの潜在的な核戦力を引き下げ、中国の潜在的な核戦力を完全にゼロにすること、攻撃を加えることになった場合のために強力な兵器を隠れて製造すること、低い軌道上にいる地球の人工衛星を破壊する可能性を拡大することの4つにある。

<http://sptnkne.ws/cxUU>

ロシア政府、プーチン大統領が仏訪問を中止した理由を説明

(スプートニク 2016 年 10 月 11 日 23:08)

© Sputnik/ Alexander Vilf <https://goo.gl/m6ITgt>

ドミトリイ・ペスコフ大統領報道官は、プーチン大統領がパリ訪問を取りやめたのは「プログラムから外れた行事」が理由だとし、記者団に次のように述べた。

「プーチン大統領は今回の訪問を取りやめる決定をした。実は、ロシアの文化・精神センターオープンと、ある展示会開催に関した行事が幾つか予定されていたが、残念ながら、これらの行事がプログラムから外れた。そのためプーチン大統領は今のところフランス訪問を中止する決断をした。」

ペスコフ大統領報道官は訪問プログラムからそれら行事が外れた理由を説明するよう求められ、「この問題はフランス側に向けられる必要がある」と答えた。また同時にペスコフ大統領報道官は、プーチン大統領にはフランス大統領にとって都合のいい時にフランスを訪れる可能性を検討する用意があると指摘した。

<http://sptnkne.ws/cxCv>

ロイター：米国はイエメンでの戦争犯罪の共犯者と見なされる可能性がある

(スプートニク 2016 年 10 月 11 日 21:42)

© AP Photo/ Hani Mohammed <https://goo.gl/BUQQY1>

オバマ政権は昨年、サウジアラビアへの武器売却はイエメンにおける戦争犯罪に加担する可能性があるという警告されたにもかかわらず、サウジアラビアへの 13 億ドル相当の武器売却を承認した。ロイター通信が、政府文書、元役人および現役の役人の話を引用して伝えた。

これはサウジアラビア率いるアラブ諸国の連合軍によるイエメンのフーシ派武装勢力に対する軍事作戦に関するもの。ロイター通信によると、米国が支持する同軍事作戦では、数千人の一般市民が殺害された。国務省の当局者は 1 年前、サウジアラビア軍がイエメンの一般市民や極めて重要なインフラに被害を出すことなくフーシ派を攻撃できるかについて不安を表した。ロイター通信は、米国の法律家たちは最終的に国際法に従って米国を戦争での連合軍の軍事同盟と考えるかどうかについて結論を出さなかったが、もし軍事同盟とされた場合、これは少なくとも理論的に、米国の一連の軍人たちが刑事訴訟を起こされる可能性があることを意味していると指摘している。

<http://sptnkne.ws/cxD4>

日本の外相 2島先行返還の可能性に関する外務副大臣の発言に反論せず

(スプートニク 2016 年 10 月 11 日 22:17)

© AFP 2016/ TOSHIFUMI KITAMURA <https://goo.gl/UTgdtk>

日本の岸田文雄外相は、岸信夫外務副大臣がロシアとの領土問題について歯舞と色丹の先行返還も排除せずに交渉を進めていく考えを示したとの報道について、岸氏の発言に反論しなかった。岸副大臣は日本テレビの単独インタビューで、歯舞と色丹の2島引き渡しを先に進めていくことも選択肢の一つか？との問いに、「できるだけ広いオプションの中で解決策を見いだしていく」などと述べた。岸田外相は11日の記者会見で、岸副大臣の発言についてコメントを求められ、「(日露間で)立場の隔たりがある中での交渉で、幅広いオプションを議論していく」と述べた。また岸田外相は、「わが国の基本的な方針は変わっていない」と再び指摘し、4島と平和条締結の問題を解決する必要性についての日本の基本的な方針に変わりはないと付け加えた。

<http://sptnkne.ws/cxEb>

オランダ大統領：ウクライナは国内の改革の責任取る必要

(スプートニク 2016 年 10 月 11 日 23:06)

© AP Photo/ Thomas Samson <https://goo.gl/senvc0>

フランスのオランダ大統領は、ウクライナ政府が同国内での改革の責任を取る必要があるとし、国連総会での演説中に次のように述べた。「ミンスク合意を完全に履行するよう私は呼びかける。ウクライナもまた改革の分野で責任を取る必要がある。私は、欧州議会がここで極めて重要な役割を果たす可能性があると考えている」。

前にウクライナのウラジーミル・グロイスマン首相は、同国が独立してから25年間で、質の高い国家運営システムを構築することができず、その期間に同国を原料経済国に変えたと認めた。グロイスマン首相によると、発展のためにはウクライナ政府は反汚職改革を進め、司法改革を完了し、ビジネスしやすい環境を作る必要がある。

<http://sptnkne.ws/cxUW>

安倍首相は対露関係改善に向かっている－駐露日本大使

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 01:10)

© Sputnik/ Maksim Blinov <https://goo.gl/4t2Rl9>

日本はロシアとの関係を改善することを目指していると上月豊久・駐露日本国大使は述べた。上

月大使は、日本政府がロシアとの領土問題を解決する用意があるとの日本のマスコミの報道にコメントし、ロシア語からの直訳では次のように述べた。「安倍首相にはロシアとの関係を改善する強い意欲があると私は確信している」。

だが同時に、上月大使は、ロシアから日本への原油、天然ガス輸出拡大は計画されているかとの質問にはコメントを控えた。上月大使は、ロシア語からの直訳では次のように強調した。「現時点でロシアから輸入されている原油や天然ガスは日本の消費量の 10%をカバーしている」。

<http://sptnkne.ws/cxVb>

ウクライナ外務省、ビザ制度導入後、同国民がロシアに逃げると危惧

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 04:48)

© Sputnik/ Natalia Seliverstova <https://goo.gl/hrB0cH>

ロシアとのビザ制度を導入するというウクライナ議員のアイデアは、ウクライナ国民の大量逃亡を引き起こす可能性があるとして、同国外務省が危惧している。外務省の政策・コミュニケーション部長のアレクセイ・マケーエフ氏がテレビ番組 I C T V で述べた。ウクライナの UNN 通信が報じた。

マケーエフ氏によると、ロシア政府が報復措置を取った場合、「ロシアで働いている数 100 万のウクライナ人」に問題が生じる。特に、彼らは就労ビザ取得のために祖国に帰らされる可能性がある。もしくは、ロシア政府はウクライナ人たちにロシア国籍を与え始める可能性がある。マケーエフ氏によると、ロシアとのビザ導入というアイデアはウクライナ国民の大量喪失に向けられてはいけない。

先に伝えられたところでは、メルケル首相は、「ノルマンディー 4 者」を夕食会に招待した。

<http://sptnkne.ws/cxRv>

露日の領土問題は「万物流転」

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 06:50)

© Sputnik/ Dmitry Astakhov <https://goo.gl/Xbltju>

今年の 10 月 19 日でソ日共同宣言は 1956 年の締結から 60 周年を迎える。同宣言は両国の間の戦争状態に終止符を打ち、外交、貿易経済などの諸関係を完全に樹立することをうたったもの。

この宣言は両国の議会によって批准され、今日に至るまで平和条約の機能を果たし続けている。なぜなら宣言には通常平和条約が含む内容の項目がすべて反映されているからだ。日本側は国境線

問題は未解決と確信しているが、宣言には両国の国境画定の条件が明確に記されている。宣言の第9項には次のように書かれている。「ソヴィエト社会主義共和国連邦は、日本国の要請にこたえかつ日本国の利益を考慮して、歯舞諸島及び色丹島を日本国に引き渡すことに同意する。ただし、これらの諸島は、日本国とソヴィエト社会主義共和国連邦との間の平和条約が締結された後に現実に引き渡されるものとする。」

二国間のこの合意が第3国の、まさに米国が邪魔して実現しなかったのはソ連が、いや今やロシアだが、ロシアが悪いのではない。当時「冷戦」のさなかで日ソの善隣関係を良しとしなかった米国民権は日本政府に対し、この条件で平和条約を締結するなど直接的に威嚇した。2つの隣国が戦後、最終的に関係を正常化しようとするのを妨げようと、米務省は日本政府の背中を押して共同宣言に違反させ、ハボマイ（歯舞）、シコタン（色丹）のみならず、クリル諸島の中でも最も大きく、開発がなされているクナシル（国後）、イトゥルプ（択捉）をも「返せ」という一切根拠のない要求を突きつけさせた。

プーチン大統領は2000年に行った初の公式的な訪日以来、日本政府が1956年の宣言合意を「蘇生」させ、これを土台に平和条約を締結するよう働きかける努力を傾けている。今年9月、ウラジオストクでもプーチン大統領は、これに対応する交渉を行う構えであることを再び口にした。一方でシコタンとハボマイに関する項目は確認が要されるものだ。なぜなら宣言にはこういった条件でこの領土が引き渡されうるのか、その場合、これらの島の主権はどちらの側に属すのかが明記されていないからだ。

この指摘は当然であり、タイミングのいいものだろう。なぜなら仮に日本政府が1956年の条件に同意したとしてもハボマイ、シコタンを自動的に引き渡すことは不可能であり、込み入った長期の補足的交渉や意見のすり合わせが要されるからだ。昔の賢人ものたまったではないか。「誰も同じ川の水に2度入ることはできない（万物は流転する）」と。共同宣言が調印されてからこのかた60年の間に世界は大きく変わった。こうした変化は、今の状況で日本へと小クリル諸島を引き渡す条件に抜本的に関わってくる。

第1に1977年、沿岸国は自国の基線（海）から200海里の範囲内に排他的経済水域を設定することができる国連海洋法条約が発効しており、今や双方が同意した場合、引き渡されるのは島に留まらない。豊富な漁業、海産物資源に富んだ島周辺の海域もこれに含まれてしまう。これらの海域を日本に渡すということは諸島周辺でのロシアの漁業にとってはあまりにも大きな打撃を意味する。つまり南クリル諸島を要求しながら日本は、事実上21万平方マイルの経済水域を要求していることになるのだ。

第2にソ連の最高指導者ニキータ・フルシチョフ、つまりハボマイとシコタンを引き渡すことを発案した人物だが、このフルシチョフの時代、これら2島の大陸棚から石油、ガスといったエネルギー資源が採掘できるなどとは誰も思いもよらなかった。採掘技術もある今、ロシアだってこれらの島々の資源採掘の権利を逸すわけにはいかない。

第3に1950年代、米国にもソ連にも核ミサイルを搭載可能な戦略的原子力潜水艦などなかった。

ところが今や双方ともがこの抑止兵器を有しており、こうした潜水艦にとっては南クリル諸島間にある水深が深く、凍らない海峡が非常に重要なのだ。なぜならこの海峡を通じれば一年中、どの時期でも潜水した状態で、国連によってロシアの内海として認められたオホーツク海への出入りが可能だからである。引き渡される島およびその周辺の海域に将来、日米の軍事施設が建設され、これが我々の国に矛先を向ける恐れがあることも危惧の念を呼ばずにはいられない。

一方で安倍首相および岸田外相が最近表した声明から判断すると、日本政府は、相互に受け入れ可能な妥協を模索しようというプーチン大統領の呼びかけにこたえる気はなく、領土画定問題に関する外交対決で事実上ロシアの降伏を執拗に求め続けているようだ。

このことからロシア側も国際合意に基づいた原則的立場を堅持せざるを得ない。ロシア外務省のマリヤ・ザハロワ公式報道官は10月5日に表した声明で、日本との平和条約交渉を進展させる条件は日本政府が領土の現実的状況を認識することであるとし、南クリル諸島に関するロシアの立場は変わっておらず、諸島に対するロシアの主権は疑う余地はないと語っている。

アナトーリ・コーシキン、史学博士

※なお記事の中で述べられている見解は、必ずしも編集部の方立場とは一致していません。

<http://sptnkne.ws/cxVh>

戦争の恐ろしさ：ドローンが破壊されたアレッポを撮影（動画）

（スプートニク 2016 年 10 月 12 日 08:04）

© REUTERS/ Abdalrhman Ismail <https://goo.gl/q1bVbJ>

シリア北部のアレッポでは、激しさの程度は様々だが数年にわたり戦闘行為が続いた結果、多くの街区が、瓦礫の山と化しているが、このほどB F M T Vが空からこれを確認した。無人機に備え付けられたビデオ機器が、シリア北部最大の町の大量破壊の様子を撮影した。

2012 年 8 月から、アレッポの西部地区はシリア政府軍が管理下に置いているが、東部地区はイスラム過激主義者や反政府蜂起グループが支配している。そのため市内では、しばしば戦闘が起きている。多くの住民が絶えず、銃撃戦や砲撃戦の犠牲者となっている。なお現地では、食料や飲料水、医薬品が不足している。

動画 <https://youtu.be/rkb3y6K3waU>

<http://sptnkne.ws/cxTt>

日本のTPP加盟、利益とリスクはどちらが大きい？

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 12:42 タチヤナ・フロニ)

© Fotolia/ Yugel17 <https://goo.gl/uBvwyV>

安倍首相は国会に対し他国に先駆けて環太平洋パートナーシップ協定（TPP）合意を批准するよう呼びかけた。こうした性急な呼びかけは 11 月 8 日に米大統領選挙が控えており、この選挙で状況が複雑化する恐れがあることに起因している。

実は次期大統領候補であるヒラリー・クリントン氏とドナルド・トランプ氏はTPP合意の批准に異議を唱えている。その一方で日本はTPPに大きな期待をかけている。日本がTPPに加盟した場合、利益につながるというのは何が一番の根拠なのだろうか？ ロシアの雑誌「エクスポート」の金融アナリスト兼経済論説員のアンナ・コロリョヴァ氏は、TPP加盟で日本は何よりもまず経済成長の新たな源を模索できるとして、次のように語っている。

コロリョヴァ氏：「日本は経済の抜本的構造改革の必要性を認識しています。一方でTPPは日本にかなり大きな優遇を約束するものです。これが出来れば陣営は最高で国際貿易の 40%を操作することになり、貿易経済オペレーションを行うためにまったく新たな条件が生まれるでしょう。日本経済はIT化されています。ですからこうした統合プロセスから外れるわけにはいかないのです。関税の障壁が除去されれば外国製品の価格は下がります。これは国民の消費力の向上に非常にポジティブに影響し、ここ数年で、中国に対して日本が失ってしまったポジションもかなり回復するでしょう。」

これはTPPに貿易の意味にもまして地政学上の意味を持たせている。つまりTPPに加盟していない中国を追い越し、太平洋地域で圧倒的な優位を誇る中国の役割に釣り合うパートナーシップを作るのだ。

コロリョヴァ氏：「以前日本はアジアでは長年にわたって統合者としての役割を務めてきました。日本は隣国諸国の経済にかなり巨額の資金を注ぎ、活発な貿易を展開してきたのです。ところがここ最近はこの役割は多少トーンダウンしています。これはひとつには日本経済が弱体化したことが原因であり、さらには中国の立場が強くなったこともあります。中国は決してぼんやりすることなく、方法論的にアジア太平洋地域における自国の影響力を拡大しています。このため日本にとっては地域での中国の役割伸張にある意味で対抗するような異なるアプローチをとるほうが得策なのです。」

だがこの道では日本に立ちはだかるリスクは少なくない。このリスクに反対派が集中するのも十分根拠がある。

コロリョヴァ氏：「TPP反対派が挙げる主要な論拠のひとつに未だに合意プロセスがかなりの部分、隠されたままであることがあります。利益につながるという大まかなせりふを除いては詳細は一切世間に公開されていない。だがこれは非常におかしな話であって、欧米間のTTIP合意交

渉のプロセスと同じではないかとかんぐらざるをえません。T T I Pでも長い間何の詳細も明かされませんでした。ですがインサイダー情報のおかげで中身が少し漏れるやいなやものすごい騒ぎが持ち上がりました。T P Pでわかっていることも疑問を呼んでいます。合意の26項目のうち貿易に直接関係するのはほんのわずかしがなく、その大半がグローバル企業に特惠を付与することに割かれています。つまりグローバル企業の利益が優先されているわけです。この一方で中小企業はものすごく大きな打撃をうけることになります。これは重要な問題ですが、未だに事前の取り決めはなされていない状態です。」

T P P交渉がなぜこれだけ嚴重に社会には公開されずに行われているのか、T P Pの実現で実際一番得をするのは誰なのだろうか？

コロリョヴァ氏：「得をするのはいつものことながら米国です。パートナー交渉は長年にわたって行われていましたが、これが活発に発展し始めたのはアジアにおける自分のポジションに恐怖感を覚えた米国が加盟を決意してからでした。ところで『タナカ・ニュース』といえば反体制派の情報インターネットリソースとしてポジショニングしていますが、この『タナカ・ニュース』の調べでは日本がT P P加盟で得る利益は向こう10年のG D P成長率でわずか0.05%です。一方で米国の自動車大手は日本市場におけるアピアランスを5～26%拡大しようと狙っています。このようにして日本の大企業でさえもT P P加盟によって得る利益はそう目立ったものではありません。他のリスクも存在します。農産品市場です。もし日本が今ある条件で合意を結んだ場合、主要農産物の生産は40%落ち込みます。ですから日本の農業セクターは大打撃を蒙るでしょう。」

コロリョヴァ氏はほかにもT P P交渉がW T Oの役割の弱体化を背景に進行していると指摘している。また国際貿易がさまざまなセクターごとに分割される傾向も認められる。第1に近隣諸国同士という地理的原則で分かれる傾向があり、これも国際貿易全体にとってリスクとなっている。

コロリョヴァ氏：「新たな貿易陣営が出現すれば、そのルールはW T Oのそれと真っ向から対立する恐れがあります。アジアのパートナーらは新たな陣営で一番手近なアジア市場に焦点を絞るでしょう。そうなれば彼らは特権的立場にたたされ、ここから困難な状況が生じ、世界全体の貿易ルールに抜本的な変化をもたらす恐れがあります。つまりこれはW T Oに関わるあらゆる合意が再検討に付される恐れがあるということです。こうなると問題はもうグローバルリスクのひとつになりかねません。」

このようにアジア市場にターゲットを絞ったT P Pの将来性は十分大きくプラス面も多く期待できそうだ。それでもこれに向かうには日本は多くの約束事を取り付け、幾度も計算を繰り返さねばならず、政治闘争の枠内に限定せず、エコノミストらによる入念かつ詳細な作業が行われねばならない。

※なお記事の中で述べられている見解は、必ずしも編集部との立場とは一致していません。

<http://sptnkne.ws/cxWy>

メルケル首相の政党支持率、歴史的な低迷

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 09:41)

© REUTERS/ Stefanie Loos <https://goo.gl/1QzE1Q>

ドイツ連邦会議でのキリスト教民主同盟とキリスト教社会同盟から成るメルケル首相の政党ブロックは、記録的な不支持率を更新した。Bild 紙が、調査機関 Insa の実施した世論調査の結果をもとに報じた。

政党ブロックの支持率は 29.5%まで下がった。これは、史上最低の支持率だ。メルケル首相の人氣は去年、シリアなどの国からドイツにより多くの移民が来るよう促進する移民政策を背景に急速に低下し始めた。

2017 年、ドイツで議会選挙が行われ、その過程で新たな首相が選出される。メルケル首相も参加するとみられている。

先に伝えられたところによると、メルケル首相はドイツ人が米国よりロシアの方を信用していると認めた。

<http://sptnkne.ws/cxV4>

経験豊富な政治家、アラブ世界での数 10 年の不安定性を予測

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 10:1)

© AP Photo/ Christophe Ena <https://goo.gl/yndJ3v>

アラブ世界が直面している不安定性の期間は、10 年かそれ以上続く可能性がある。チュニジアのモンセフ・マルズーキ元大統領が述べた。

テレビ局アル・ジャジーラが今日報じたマルズーキ元大統領の言葉によると、現段階は全東アラブの政治経済システムの崩壊によって特徴づけられる。

マルズーキ元大統領は次のように述べた。

「これはまさにすべての生物を破壊する地震だ。我々は 10 年か 20 年続く可能性がある不安定状態に入った。その後は東アラブでの新たな政治システム形成が始まる。」

マルズーキ元大統領は「失敗」の主な原因として、「腐敗とアラブ諸国の政治システムの要素としての専制政治」を挙げた。

先に伝えられたところでは、サウジアラビア空軍の戦闘機 4 機がイエメンの首都サナアを空爆した結果、少なくとも 75 人の民間人が死亡ないし負傷した。

<http://sptnkne.ws/cxW6>

ロシア、日本をクリミア近くで実施のプロジェクト参加に招待

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 10:53)

© Sputnik/ Sergey Malgavko <https://goo.gl/frtyPA>

ロシアは日本に新たな経済協力プランの一環で、68 個のプロジェクトに参加するよう提案した。うち幾つかの実現化のためにはクリミア近くの作業を伴う共同通信が日本の政府筋をもとに報道した。同氏によると、協力プランはタマン半島の道路、鉄道、港湾インフラの開発プロジェクトや、シベリア鉄道の北海道への延伸などが含まれている。共同通信は、クリミア半島付近の開発は政治的に実現困難な案件だと指摘している。「調整は難航が予想される」と共同通信は報じた。

<http://sptnkne.ws/cxW9>

中国の軍人 欧州 MD はロシアに直接的な脅威をもたらしていると考えている

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 12:48)

◎ 写真: U.S. Army Corps of Engineers Europe District <https://goo.gl/QtvVrJ>

米国は欧州でミサイル防衛システム発展計画を実現しているが、同システムがロシアに向けられたものではないという保証を提供していない。実際のところ同システムはロシアの安全保障に直接的な脅威をもたらしている。中国の中央軍事委員会統合本部の代表ツァイ・ジュン氏が述べた。

ツァイ氏は、米国の行動は「グローバルおよび地域的な米国のプレゼンスを強めており、地域の力の不均衡を高め、既存の対立の悪化を扇動し、安全保障分野の全体的な状況を複雑にしている」と語った。

ロシアは、欧州でのミサイル防衛システムの展開に関する米国と N A T O の行動は国家安全保障に脅威をもたらし、地域の戦略的安定を損ねる可能性があるとして繰り返し発表している。またツァイ氏によると、ロシア軍と中国軍は 2017 年にミサイル防衛 (MD) に関する 2 回目の軍事演習を実施する。

<http://sptnkne.ws/cxWF>

米国のNATO同盟国「米はテロリズム支援国家になる可能性あり」

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 13:50)

© REUTERS/ Khaled Abdullah <https://goo.gl/9RswM3>

トルコのチャヴシオール外相は、クリントン米民主党大統領候補の発言をテロリズムを支援するものと非難した。クリントン候補は、シリア領内で活動するクルド民主同盟（連合）（P Y D）への武器供給に言及した。

トルコ政府は、同国内で禁止されているクルド労働者党と関係を持つP Y Dをテロ組織とみなしている。セントルイスでのT V討論の際、クリントン候補は、クルド人の武装を検討するかもしれないとし、シリア及びイラクにおける米国の「より良き友人」呼んだ。

アナドル通信によれば、これにチャヴシオール外相は反発し「この場合、米国は、テロリズム支援国に変わることになる。我々は、友好的に警告したい。テロリストらと協力する輩は、その結果、彼らと一緒に行動する」と述べた。

トルコはNATOの最も古くからの同盟国の一つであり、1952 年の最初の拡大と共に加入した。

<http://sptnkne.ws/cxWx>

露外務省、英外相の「在ロンドン露大使館前でピケを！」の呼びかけに冷静な返答

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 15:56)

© Sputnik/ Anton Denisov <https://goo.gl/AZVjSd>

ロシア外務省のマリヤ・ザハロヴァ公式報道官は英国のジョンソン外相がロシアを非難し、ロンドンのロシア大使館前でデモを展開しようと呼びかけたことに次のようにコメントした。「ボリス・ジョンソン氏はどうやら言葉を捨てて行動に走り、武器と手にとってロシアを脅かそうとされたようです。まあ、恥ずかしいこと。これは本当に恥ずべきことです」。ザハロヴァ公式報道官の声明をリア-ノーヴォスチ通信が報じた。

ジョンソン英外相は議会で演説したなかで、ロシアはならずものの国家になる運命だと予言し、ロンドンにあるロシア大使館前で反戦デモを展開せよと呼びかけ、「ロシア大使館前でデモが展開される様子をこの目で見たい」と発言した。先に伝えられたところでは、ロシアのプーチン大統領は、10 月 19 日に予定されていたフランス訪問を拒否した。

<http://sptnkne.ws/cxYz>

サルコジ氏、オランダ大統領の対ロシア姿勢は「無責任」と批判

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 16:12)

© AFP 2016/ Francois Lo Presti <https://goo.gl/KfJ3Yi>

前仏大統領で現在、仏最大野党「共和党」党首を務めるニコラ・サルコジ氏はプーチン大統領の仏訪問中止の発表を受け、オランダ現仏大統領のロシアに対する姿勢を「無責任」と批判した。

「常に展開される対ロシア政策を残念に思う。私はプーチン大統領とは見解を異にするが、それでも仏および欧州の利益のためにロシアと対話を行なうべきだと考える。」

サルコジ氏の声明をAFP通信が引用して報じた。サルコジ氏はシリア情勢については、指導者らのやりとりが書面による声明に終始している間は正常化は不可能と指摘している。ロシアのプーチン大統領は11日、10月19日に予定のフランス訪問を拒否。プーチン大統領のこの決定は前日の10日、オランダ大統領がプーチン大統領との会談を拒否する考えであることが明らかにされたあとなされたもの。

<http://sptnkne.ws/cxZb>

スノーデン氏は米国に渡せない、その理由を駐米ロシア大使が説明

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 18:20)

© REUTERS/ Mark Blinch <https://goo.gl/t5Q6rT>

セルゲイ・キスリャク駐米ロシア大使は、元米国家安全保障局職員のエドワード・スノーデン氏の身柄について、ロシアは同氏を米国司法に引き渡すモラル上、法律上のいずれの権利も有していないという声明を表した。リアノーボスチ通信が報じた。キスリャク大使はさらに、米露間には法律違反容疑者の交換についての取り決めがないことも指摘した。先に伝えられたところでは、スノーデン氏はYahooユーザーはただちにアカウントを削除するよう呼びかけた。

<http://sptnkne.ws/cxZ6>

露エネルギー相、どの程度の期間、原油増産を凍結するのが得策か語る

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 18:49)

© Sputnik/ Aleksey Nikolskyi <https://goo.gl/8i7Nqj>

原油増産の凍結は半年間にし、必要に応じて延長するのが得策だとし、ロシアのアレクサンドル・ノバクエネルギー大臣は次のように述べた。

「私の意見では、6 ヶ月の期間とするのが得策だ。なぜなら、1 年間はやはり十分長い期間だからだ。私の意見では、必要に応じて延長する可能性を含んだ 6 ヶ月が得策だ。そしてこの期間中に、凍結期間を終了するかどうかの決定を取るために、情勢をモニタリングすることができる。」

O P E C は 9 月 28 日、アルジェリアで行われた非公式会合で 1 日 325 万から 330 万バレルの域に原油生産を制限することで同意した。一方、各々の国のための具体的な上限量についての合意は今のところない。

先に伝えられたところでは、国際原油価格は 12 日、O P E C 加盟国および他の産油国のイスタンブールでの非公式会合の結果に期待値が高まっていることを背景に上昇した。

<http://sptnkne.ws/cyeN>

露上院、シリアへのロシア空軍無期限派兵を批准

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 19:04)

◎ 写真: Press service of the Russian Defense Ministry <https://goo.gl/S4yKGT>

ロシア連邦院(上院)はシリアへのロシア航空宇宙軍無期限派兵についての協定を批准した。ロシアとシリア代表が 2015 年ダマスカスで調印した協定に則り、ロシア側にはラタキア市南東にあるフメイミム空軍基地が、インフラと必要な領域とともに無償で提供される。航空軍の構成はロシア代表がシリア政府の同意に基づき決定するという。

<http://sptnkne.ws/cydG>

1956 年のソ日共同宣言から 60 年

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 22:49 リュドミラ・サーキャン)

◎ Sputnik/ Alexander Polyakov <https://goo.gl/ZyfeuQ>

13 日モスクワでは、ロ日第一外務次官レベルでの戦略対話の定例ラウンドが始まる。そこでは、ロシアと日本の間の平和条約に関する諸問題も話し合われる予定だ。

今月 19 日は、モスクワでソ連と日本が共同宣言に調印してから 60 周年目にあたっている。この宣言が調印された交渉の最終段階は、1956 年 10 月 13 日から 19 日までモスクワで行われた。これにより両国間の戦争状態は終わり、外交及び領事関係が復活した。またソ連は、国連加盟についての日本の要請を支持し、ソ連領土内に残ったすべての日本市民を解放し、彼らを日本に帰還させる用意のあることを明らかにした。同時に、貿易発展及び漁業分野での協力に関する議定書にも調印が

なされた。ただ交渉の過程では、領土確定問題に関する合意については達成されなかった。それゆえ文書は、平和条約ではなく、共同宣言という形になった。

スプートニク日本記者は、この交渉に直接参加したセルゲイ・チフヴィンスキイ・ロシア科学アカデミー会員にインタビューした。セルゲイ・チフヴィンスキイ氏は今年9月に98歳の誕生日を迎えている。

記者：1956年のソ連と日本の交渉は、どのような理由で行われたのですか？

チフヴィンスキイ氏：「どのような戦争も、平和により終わる。ソ連と日本の間の平和は遅れていた。当時、第二次世界大戦から10年経ち、障害が弱まったように思われた。平和条約に関する交渉が、何十年も長引くなど誰が予想しただろうか？ 日本には、ソ連のように巨大で影響力を持つ国家と正常な関係がないことが、日本の国際社会への復帰を不可能にし、互恵的な貿易の妨げとなり、対外政策の自主性を制限しているとの認識があった。ソ連との正常な関係なしに、日本の国連加盟や、中国を筆頭にした社会主義諸国との外交関係確立を期待するのは難しかった。また日本との関係が調整されていないことは、ソ連の利益にもかなっていなかった。なぜなら、急速に経済力を復活させている極東の隣国、日本との貿易及び協力の確立を阻害していたからだ。漁業のような両国にとって非常に重要な経済領域での協力を難しくしていたし、日本の民主的諸組織との接触を妨げていた。その結果、日本が米国の軍事的戦略にますます引き込まれるのを促していたからである。」

記者：あなたは当時まだ若い外交官でしたが、どのような経緯で、ソ連交渉団の一員となったのですか？

チフヴィンスキイ氏：「1955年から日米ソの間で、交渉をどこで行うかについて駆け引きが続けられていた。米国はニューヨーク行よう強く主張し、いくつか他の提案もあった。最終的に、交渉はロンドンで開始される事に決まった。当時の駐英ソ連大使は、ヤコフ・マリク氏だったが、それまで彼は長く駐日大使を務めており、よく日本のことを知っていた。一方日本の駐英大使は、松本俊一氏だった。この二人が、交渉でのそれぞれの全権代表となった。当時私はロンドンで、参事官として働き、アジア・アフリカ・南米諸国との関係を担当していた。そうしたわけで対日交渉のための政府代表団スタッフが決められた時、私もそのメンバーに含まれた。」

記者：交渉は、どのような雰囲気の中行われたのですか？ すべてスムーズに進んだのでしょうか？

チフヴィンスキイ氏：「米国が何度も干渉したにも関わらず、両国の間の戦争状態に終止符を打つ平和条約の条項のほとんどすべてに、合意することができた。ただ領土に関する条項だけは、調整に長い時間がかかった。日本側は自分達の路線を、我々は我々の路線を主張した。当初日本側は、エトロフ、クナシリ、シコタンそしてハボマイの島々について、そしてサハリンの北緯50度以南の部分について駆け引きを行った。ソ連側は、そうした提案を断固退け、日本にハボマイとシコタンを引き渡すという自分達のバリエーションを提案した。しかし日本側は、その受け入れを拒否した。」

コンセンサスは見つけられなかった。それ故領土問題は、ロンドンでの交渉において、解決されなかった。1956年3月には、交渉の一時停止があった。」

記者：しかし1956年秋には、交渉は再開されました。何があったのでしょうか？

チフヴィンスキイ氏：「この時までにはソ連は、外国船に対するオホーツク海での漁獲規制を導入した。この措置が、第一に日本側を苦しめた。1956年5月、鳩山一郎首相は、モスクワに自分の友人である河野一郎農林相を派遣した。しかしモスクワで彼は、漁業問題ばかりでなく、平和条約をめぐる対話継続についても交渉した。そして1956年7月、今度は、そうした目的を持って重光葵外相がモスクワを訪れた。しかし、その時の交渉は、クリルの島々に関する立場の違いによりうまく行かなかった。当時、日本国内及び自由民主党内では、ソ連との関係復活路線の撤回あるいは弱体化を求める勢力が強くなり始めていた。彼らは、鳩山首相の解任さえ要求した。当時鳩山氏は『自分の選挙公約を遂行し、ソ連との国交を正常化してはじめて、私は退陣できる』と述べている。そして1956年秋、それまですでに重い病に侵され、車いすで移動していた鳩山氏は、モスクワ訪問を決めた。事実上、10月のモスクワ滞在中のすべての日々は、極めて厳しい交渉の毎日だった。フルシチョフはすでに忍耐力を失いつつあったし、鳩山氏も明らかに体調が悪かったと思われる。日本側は、交渉を終わらせなければ、失敗に終わってしまうと理解した。その結果、1956年10月19日、双方は、国交回復に関する共同宣言に署名した。そして翌11月、日本の衆議院で賛成365、反対あるいは欠席60で、この文書は批准された。続いて参議院でも批准され、12月8日には裕仁天皇が承認し、12月12日、東京で批准書の交換が行われた。一方鳩山氏は、自分の約束を守り、1956年12月に首相を辞任した。」

記者：あなたは、1956年の宣言をどのように評価しますか？

チフヴィンスキイ氏：「もちろんこれは、前進の一步だった。両国間の戦争状態が終わり、すべての日本軍人が家に戻った。ソ連は、日本の国連加盟に拒否権を使うのを止めた。貿易発展と最恵国待遇相互付与に関する議定書の調印は、経済協力の可能性を開いた。私は、あらゆるファクター全体と米国の極めて非友好的立場を考慮すれば、あれがあの当時達成できた最大限のことだったと考えている。」

記者：1956年の宣言にある条件の上に立って、60年後の今、日本と平和条約を調印できると、あなたは考えますか？

チフヴィンスキイ氏：「もちろん私は、二国間の議題すべてを難しくするこの問題を終わらせてほしいと思っている。それが可能であったにもかかわらず、我々がハボマイとシコタン2島を開発しなかったのは偶然ではなかったと思われる。現在、このバリエーションを受け入れるか否かを決めるのは、日本側だろう。2島が残され、ハボマイとシコタンが日本に渡されるというバリエーションは、最も合理的で達成可能なものだと考える。最終的に、この問題に終止符を打たねばならない。」

なお鈴木宗男元衆議院議員も、全く同じ立場をとっている。安倍首相は、鈴木氏のアドバイスに

耳を傾けていると言われている。

1956 年の共同宣言は、ロシア側にとっても気に入らないものだ。なぜならハボマイとシコタンを日本に譲渡する義務があるからだ。一方、日本側にとっても、クナシリとエトロフについて記述がないことは気に入らないだろう。しかし、関係正常化は、両国とも望んでいる。プーチン大統領も安倍首相も、領土問題解決に向け対話を続けることにはっきり賛成している。先日の記者会見で、ロシアのドミトリイ・ペスコフ大統領報道官は「遅かれ早かれ日両国は、コンセンサスに達することができるだろう」と述べた。しかしそのためには、協力して突破口を開く必要がある。

<http://sptnkne.ws/cygm>

韓国、金正恩抹殺用特殊部隊創設へ

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 20:35)

© REUTERS/ Kim Hong-Ji <https://goo.gl/MpECLS>

韓国は、北朝鮮との間で戦争行為が始まった場合に、北朝鮮の司令部と指導部を破壊するための特殊部隊を創設すると発表した。水曜日 12 日、聯合ニュースが報じた。

その改良されたユニットの課題に入るのは特に、北朝鮮の最高指導者金正恩とその周辺を殲滅することだ。特殊部隊には大型輸送ヘリ CH-47 の改良機が投入される。CH-47 は空中給油システムとレーダーを備えている。CH-47 は空挺兵を 40 人まで輸送できる。特殊部隊は 2018 年までに用意される予定。

以前 9 月に北朝鮮が、建国 68 周年を記念し 5 回目の核実験を行った。北朝鮮の朝鮮通信は、核実験の目的は弾道ミサイルに取り付ける予定の標準化された核弾頭の軍事利用時の性能データを得ることだったと報じた。さらに、北朝鮮が新たな核実験を準備している可能性があるとして報じられた。

<http://sptnkne.ws/cyje>

マスコミ：オバマ大統領は対露制裁強化を防ぐ構え

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 21:07)

© REUTERS/ Yuri Gripas <https://goo.gl/FWAKxn>

ホワイトハウスはシリア政府とその同盟国に対する制裁に関する法案採択を妨害しているとワシントン・ポスト紙が報じた。同紙は、法案が特に、シリアのアサド大統領の主要同盟国であるロシアとイラン政府に圧力を加えることを目的としていると指摘している。

共和党のアダム・キンツィンガー氏が同紙に述べたところ、衆議院は9月末にすでに法案を承認する準備をしていたが、オバマ政権が延期するよう議会に求めた。ホワイトハウスが、投票は当時機能していたシリア停戦に関するロシアとの合意を壊す可能性がある」と述べると、民主党員は法案支持を取り下げた。

アダム氏によると、ホワイトハウスは、対イラン制裁は同国政府との核合意にネガティブに影響する可能性があり、反ロシア措置はシリア正常化に関するロシア政府との外交的協力関係を損ねるとして、法案に反対し続けている。

なお先に伝えられたところによると、トルコのチャヴシオール外相は、クリントン米民主党大統領候補の発言をテロリズムを支援するものと非難した。

<http://sptnkne.ws/cykj>

プーチン大統領、西側の制裁のロシア経済への影響を語る

(スプートニク 2016年10月13日 04:49)

© Sputnik/ Ilya Pitalev <https://goo.gl/VKPd75>

西側諸国の制裁のロシア経済への影響は第一に、技術へのアクセス制限に現れているとし、プーチン大統領がフォーラム「Russia Calling」の本会議で次のように述べた。

「我々は、これらのいわゆる悪名高い制裁が我々にはあまり影響も及ぼしていないとのマントラをよく繰り返している。だが、影響している。そして何よりの脅威を私は、技術伝播の制限に見ている。」

プーチン大統領は次のように強調した—

「この制限はロシア経済だけではなく、世界経済全体にも損害をもたらす。なぜならロシア経済は言うまでもなく、グローバル経済にとって重要なセクターであるからだ。」

プーチン大統領は次のように付け加えた—

「そのため、この制限を行っている人々は自らを最終的には害している。しかし、我々はもちろんこの制裁に対処することができると、私は考えている。」

関連のニュースはこちらから。 <https://goo.gl/kPSlu2>

<http://sptnkne.ws/cymf>

いかなる法律により北朝鮮の対外貿易は営まれているのか？

(スプートニク 2016 年 10 月 12 日 23:48)

© REUTERS/ Damir Sagolj <https://goo.gl/qpMQY7>

北朝鮮の対外貿易構造は、ソ連モデルと大きく異なっている。国内ではだいぶ以前に、事実上、対外貿易に対する国家独占支配がなくなり、今や党中央委員会、果ては参謀本部に至るまであらゆる人達が、それに携わっている。韓国ソウルのクンミン（国民）大学で教鞭をとるロシアのコリア専門家、アンドレイ・ラニコフ教授は、北朝鮮の起業家達が、誰とどんなふうに商売しているのかについて、次のように説明してくれた。

事実が示しているように、北朝鮮は常に、対外貿易に依存してきた。これは 1990 年代から明らかになった。北朝鮮が、ソ連邦及び社会主義陣営の存在停止と共に突然貿易の可能性を失った頃である。ソ連崩壊後、北朝鮮の工業は事実上、ストップしてしまったのだ。以降主要な貿易パートナーの役割は、中国が占めてきた。現在では北朝鮮の貿易取引の 90%に達している。またこの事は、北朝鮮の対外貿易機関全体の完全な立て直しをもたらした。最終的に中央集権的体制が崩れた。

中朝貿易の大部分は、首都ではなく、瀋陽や丹東といった中国東北部の地方都市で行われている。中でも主要な役割を果たしているのは、鴨緑江の中国岸にある丹東である。この町は、対岸の北朝鮮の町、新義州と橋で結ばれている。この車線が一つしかない狭い、そして古い（1943 年建造）橋を通して、北朝鮮の対外貿易取引の何と三分の二以上がなされているのだ。

北朝鮮の対外貿易構造は、ソ連型モデルと非常に異なっている。すでに 1970 年代終わり、国内では事実上、対外貿易に対する国家独占支配がなくなった。当時多くの国家及び党の機関・施設や巨大企業は、特別に作られた対外貿易会社を通じて、自主的に対外市場に出る権利を手にした。ここで興味深いことは、しばしばそうした会社には、彼らが設立した企業の活動とは全く関係のないものも含めた、あらゆる商品を扱うことができた点だ。実際そうした会社は、単に何かの商品、例えば、石炭あるいは朝鮮エンジンなどを国内市場で買い占め、ライセンスを利用して、それらを国外に売っていた。

こうした会社の労働者、通商代表達は、定期的に自分達の企業に、あらかじめ決められた額のお金を納めなくてはならない。その額は多くの場合、およそ 3 万ドルだ。事実上これは固定された税金のようなものである。なぜなら、大抵会社の指導部は、代表により結ばれる契約をコントロールできないからだ。10 年から 15 年丹東と瀋陽で働いた通商代表の中には、もうだいぶ以前からドルの億万長者も生まれた。

しかしここ数ヶ月は、丹東にとって辛い月日となった。3 月初め、中国は、北朝鮮に対する厳しい制裁を規定する国連安保理事会決議を支持したからだ。この決議に従い、中国は北朝鮮からの有用鉱物の輸入を大幅に削減した。これは丹東の多くの企業家達にとって深刻な打撃となった。現在多くの会社は、自分達の未来を心配している。とはいえ密輸業者達は、決して気落ちしてはいない。

ところが最近、丹東の商人になかに、状況が好転するのではないかとの期待感が広がり始めた。今年7月、韓国が、自分達の領土内に米国のTHAAD（終末高高度防衛ミサイル）を配備する決定を下したからだ。この事は、中国の大きな怒りを呼んだ。それゆえ、新たな条件の下で、中国の人達が、対北朝鮮制裁に積極的取り組みなくなる可能性も排除できなくなっている。

<http://sptnkne.ws/cymD>

日露大学協会、年末までに創設へ

（スプートニク 2016年10月12日 22:53）

◎ 写真：Mahunnop Fakkao <https://goo.gl/28rXDH>

日露大学協会創設の協定が2016年末までに調印されると、モスクワ大学のヴィクトル・サドーヴニチイ学長がスプートニクに述べた。これに先立ち、第6回日露学長フォーラムでサドーヴニチイ学長は、協会設立の計画を発表していた。

さらに、サドーヴニチイ学長によると、モスクワ大学と東北大学間の共同学位、神戸学院大学との交換留学、そして一般的な協定といった3つの協定に調印されるという。サドーヴニチイ学長は以前、日本の大学をロシアの大学ランキングへの参加に招待した。

<http://sptnkne.ws/cyn3>

プーチン大統領：ロシアは誰がアレッポ付近で人道援助の車列攻撃したか知っている

（スプートニク 2016年10月12日 23:05）

◎ Sputnik/ Iliya Pitalev <https://goo.gl/ExcVSN>

ロシアは、シリアで人道援助物資を運んでいた車列に攻撃を加えたのは、テロ組織の一つであることを知っている、プーチン大統領は述べた。

VTB銀行が主催するフォーラム「Russia Calling」での演説中にプーチン大統領は、テロリストが人道援助物資を運んでいた車列に攻撃を加えたのは米国も知っているが、根拠なしにロシアを非難するという異なった立場を取ることを好んだと述べた。

車列が攻撃されたのは9月20日、アレッポ市から北西の地点。車列は31台のトラックからなっており、7万8,000人分の援助物資を運んでいた。赤十字国際委員会のデータによると、ウルム・アルクブラ村で18台のトラックが破壊され、シリア・アラブ赤新月社（SARC）の代表や8人の運転手含む少なくとも20人の民間人が殺害された。

ロシアは、諜報データの綿密なチェックの後にのみシリアで空爆を行う目的の決定をするとの声明を一度ならず出した。ロシア航空宇宙軍が民間施設に攻撃したなどという情報は、一度も証拠を見つけたことがない。

<http://sptnkne.ws/cyqj>

プーチン大統領「どうして米国の利益に奉仕するのか理解できない」

(スプートニク 2016 年 10 月 13 日 00:20)

© Sputnik/ Alexei Druzhinin <https://goo.gl/dCRwUb>

ロシアは露米関係悪化に憂慮しているとし、プーチン大統領はフォーラム「Russia Calling」の本会議での演説中に次のように述べた。

「我々も露米関係の悪化に憂慮している。これは我々の選択ではない。我々はこれを目指したことは一度もなく、逆に、世界でも有数の経済を持つあのような巨大で偉大な国と友好的な関係を持ちたい。」

プーチン大統領はまた、現在米大統領選挙の参加者が反露レトリックをあまりに乱用していると指摘した。ハッキング攻撃に対するロシアへの非難について、プーチン大統領は次のように指摘した。

「このヒステリーは、ハッカーにより流出した内容から米国民の注意をそらすためだけに起こされている。しかし、なぜか流出した内容については誰も語らない。本質的には、これは世論操作だ。」

オランダ大統領との会談のためのパリ訪問を中止したことにコメントして、プーチン大統領は、ロシアにはフランス含む全てのパートナーと協力する用意があると指摘したが、どうして米国の外交・国内政策に奉仕できるか理解できないとし、次のように述べた。

「ただ単純に自らの同盟国の、この場合は米国の外交利益、もしかしたら内政利益にさえ奉仕することが欧州諸国の利益に則しているか、則していないかはわからない。私にはわからないが、これが真剣な政治だと呼べるのだろうか？ そして、独立した外交政策を行うこと、大国だと称することを目指している真剣な諸国の役割は本当にこのようなものなのだろうか？ 私にはわからない。」

<http://sptnkne.ws/cyrs>

日本政府、ロシア観光強化を旅行業界に要請

(スプートニク 2016 年 10 月 13 日 02:45)

© Sputnik/ Ekaterina Chesnokova <https://goo.gl/8HEsC4>

日本政府は同国旅行業界に、ロシア極東への観光ツアーを促進するよう要請した。共同通信が伝えた。これは、8 項目からなる関係発展の新たなプランに即した、2 国間の経済的つながりを強化する目的でなされた。

11 月には、旅行各社の担当者がウラジオストックとハバロフスクに派遣し、旅行インフラを視察する予定だと報じられている。さらに、日本の政府観光局は近い将来にモスクワ事務所の開設を目指している。さらにもう一つの 2 国間の観光促進方法として、日本はロシア国民に対するビザ緩和を検討している。

日本政府のデータによると、2014 年ロシアに訪れた日本人は 10 万人ほど。普通、日本からの観光客はモスクワやペテルブルクを訪れる。極東地方の町の旅行は今のところ、大きな人気を博してはいない。

なお先に伝えられたところによると、日露大学協会創設の協定が 2016 年末までに調印される予定。

<http://sptnkne.ws/cy4j>

「アレッポ行き人道物資輸送車列の爆撃に露加担の断定は政治化されたもの、事実の裏づけは皆無」

(スプートニク 2016 年 10 月 13 日 04:56)

◎ 写真: CNN <https://goo.gl/FA1MRe>

ラヴロフ露外相は、アレッポへの人道物資輸送車列の空爆にロシアが加担したという西側の非難について、証拠は皆無だと反撃した。ロシアが空爆したという声明はこれより前、米国およびその同盟国から幾度も出されている。

「こうした声明のすべては確認を要する。なぜなら民主党のサーバーへのサイバー攻撃に関する声明と同様、我々の側は一切の裏づけを受け取っていないからだ。我々は事実を提出するよう要請し、アレッポへの人道援助物資輸送車列攻撃の捜査を強要した。私の友であり同僚のボリス・ジョンソン氏が言うことは完全に政治化された（ロシアに罪を擦り付ける）もので、これは彼のいつもの尊大なやりかただ。」ラヴロフ外相は CNN テレビからのインタビューにこう語っている。

ラヴロフ外相はまた、9 月 19 日にシリアのアレッポ付近で行われた人道物資輸送車列への攻撃について何らかの情報を握っているあらゆる当事者に対し、その情報を国連へと渡すよう呼びかけた。

なお先に伝えられたところによると、ロシアは、シリアで人道援助物資を運んでいた車列に攻撃を加えたのは、テロ組織の一つであることを知っている、プーチン大統領は述べた。

<http://sptnkne.ws/cywn>

プーチン大統領、シリアにおけるロシアの目的を語る

(スプートニク 2016 年 10 月 13 日 05:17)

© Sputnik/ Aleksey Nikolskiy <https://goo.gl/gBcGmQ>

シリアおよび中東地域の現状に全体として責任を負う筆頭は米国とその同盟国。プーチン大統領は仏TV局「TF1」からのインタビューにこう語った。

シリアのアレッポの状況はここ数ヶ月、急激に悪化。米国とその同盟国らは一般市民および武装反体制派を空爆しているとしてシリア政権とロシアを非難している。これに対しシリアとロシアは、空爆の対象はテロリストに限定されていると力説しており、米国は「穏健反体制派」の部隊に影響力を行使して、彼らがテロリストらから分離するよう仕向けられないとしてこれを非難している。

「リビア、またはイラクがどうであったか、思い出してみようではないか。今日の我々の理解ではこれはもちろん民主主義の手本ではなかった。おそらく、社会構造、国家構造を変えるよう影響を及ぼすことは可能であり必要だったのだろう。だがいずれにしてもあそこ（リビア、イラク）にはテロリズムを示す兆候は一切なかったのだ。この領域（リビア、イラク）からはパリにとっても、フランスのコート・ダジュールにとっても、ベルギーにも、ロシアにも、米国にも脅威となるものは生じていなかった。ところが今やこれはテロの脅威の源ではないか。我々の目的はまさにこうした事態をシリア領域では許さないことにつきる。」

プーチン大統領はこう力説した。

なお先に伝えられたところによると、ロシア側は米国のパートナーらに対し、前向きな対応をしたにもかかわらず、米国はシリア停戦の合意を破った。

<http://sptnkne.ws/cyxW>

トルコ国内にロシアと共同で西側のシリア分割プランに抵抗する意見

(スプートニク 2016 年 10 月 13 日 05:55)

© REUTERS/ Abdalrhman Ismail <https://goo.gl/42N4fr>

水曜日、トルコのマフメト・アカラジャ首相首席顧問は「現在ロシアとトルコ両政府は、シリア

分割を含め、中東を不安定化させるプランに抵抗している」と述べた。

アカラジャ首相顧問は、記者団と個人的に懇談する中で「西側は、中東における自分達の影響力を確立したいのだ。そうしたことを欲していないのは、ロシアとトルコだ。そうであれば、現在シリアの領土保全を支持しているのは、この2カ国だけとなる」と指摘した。

また首相顧問は「ダーイシュ（IS、イスラム国）の創設を支持する者達、地域の分割プランを練っている者達など、そうした者達は、おそらく、シリアに対し大変良くないプランを考えている。こうしたプランに抵抗しているのは、トルコとロシアだけである」と付け加えた。

<http://sptnkne.ws/cy48>

キレル寸前、シリア危機を核戦争へと拡大させてしまうのか？

（スプートニク 2016年10月13日 07:06 エフゲーニヤ・モイセーエワ）

© REUTERS/ Jonathan Ernst <https://goo.gl/ABbtUA>

ここ最近、ロシアの対米、対西側諸国関係にはショッキングな事件が目白押しだ。シリア対話から米国は抜けるわ、兵器用プルトニウム処理の露米合意順守を停止するわ、核の協力は止めるとプーチン大統領は最後通牒を出すわ、国連安保理のシリア決議は両方とも延期されるわ、シリアにロシアのS-300が配備されるわ…。事件もまくし立てる声も大きく、列挙に暇もない。

もっと穏やかなときにはこうしたニュースは数週間をかけてゆっくり咀嚼されたものだが、今やアナリストらもコメントを出すのも間に合わないほど。かっかと火に油が注がれた状況の全貌をここで振り返ってみよう。

「こんなにきついパンチはなかったっくらい、叩いてやるからな！」

先週ワシントンで毎年の米軍協会の会議が開催。この中でマーク・ミリー米陸軍参謀総長はロシアとの大規模な戦争は「ほぼ不可避」という声明を表した。ウィリアム・ヒックス少尉はこれに、この紛争は「近い将来」に起こり、「流血の悲惨極まりない、迅速に展開するものとなり、止めようとしても我々には止めようがない」と付け加えている。この際、ミリー氏は矛先をロシアの脅威に向けることを忘れなかった。「我々はあんたたちを止めてやる。そしてあんたらが今まで叩かれたことのないほど強く叩いてやるからな。見誤るなよ。」

動画 <https://youtu.be/VvVrQqUIGwc>

ダンフォード米統合参謀本部議長は米中央軍は新たな国家軍事戦略を準備したことを明らかにした。そこには主たる脅威としてロシア、中国、北朝鮮、イランおよびもうひとつ「急進主義の形の非国家的な挑戦」が列挙されている。9月22日、ダンフォード議長はロシアを米国の国益にとつ

て「最大の深刻な脅威」と断言。

米国防総省のアシュトンカーター長官は9月27日、ロシアないし朝鮮民主主義人民共和国が核兵器を使用する危険性があるとの同省の認識を明らかにし、これを根拠に米国は核抑止力の完成に力を注ぐ必要があると語った。10月6日、米原爆B61シリーズの新型爆弾の最終実験が成功裏に終了している。

国防は攻撃にあらず

とはいえ、もしロシアの行動に米国がとやかくまくし立てるあの脅威のわずかな兆しでも認められようものならば…。

10月初め、ロシアは4千万人を動員した大規模な民間防衛演習を行なったとして猛烈な非難を浴びた。演習の目的は核戦争を想定した民間防衛の施設、ストラクチャーの準備体制のテストであり、Xアワーに民間がとるべき行動フォーマットを補足して伝達することにあつた。西側のマスコミはこれに大騒ぎし、ロシア指導部はこうすることで核戦争を自国民に吹き込んでおいてから、本当に展開するつもりだと書きたてた。上述の米軍人、役人の声明を考えるとマスコミのロジックは明確とはいえない。

さらにもうひとつ、ロシアの行為でおぞましい、攻撃的なものと見なされてしまったのがシリアへのS-300の配備だった。こうなったのは米國務省のキルビー報道官がロシアはシリアから「軍人の遺体を袋詰めにして本国に送還」し、「さらに多くのロシア機が撃墜」され、ロシアの諸都市ではテロが始まる恐れがあるという声明を表した後だった。

この声明の少し前、ロイター通信のサイトにこんな情報が掲載された。ペルシャ湾岸諸国、もちろんここには中東地域における米国の主たるパートナーのサウジアラビアも入っているが、これらが近々にシリアの反体制派への可動式高射砲ミサイルの供給を開始するというのだ。この他にも西側のマスコミはホワイトハウスがシリア政府軍に攻撃を仕掛ける可能性を検討しているというニュースをキャッチした。この一方で米国はシリアとの戦争を行なう状態にはない。なぜならシリアの同盟国はロシアだからだ。

特異な診断

月29日、国防省のTVチャンネル「ズヴェズダー（星）」のサイトにこんなタイトルの記事が掲載。「米国の分裂症患者がモスクワに核兵器を向けている」。これを読んだ西側のプレスは大笑い。ちょっとお言葉を返しますが可笑しいことは何もない。他の論説員らはこの現象は診断ではれっきとした分裂症だと指摘している。分裂症の顕著な特徴はまず、自分は犠牲者であると思いこみ、他の人間に攻撃を仕掛けること。しかも恥ずかしいという意識は一切なく、現実状況の認識ができない。

ロシア政府は引き続き西側に警告。ロシア外務省のマリヤ・ザハロヴァ公式報道官は米国がシリ

ア政府およびシリア軍に新たな直接的攻撃を仕掛けた場合、中東全体に恐ろしい地質変動が起きるだろうと警告を発した。ロシア国防省のイーゴリ・コナシェンコフ報道官も米政権に対し、「起こりうる結果を入念に計算する」よう勧め、ロシアの高射砲ミサイルシステムの有効射程範囲は「認識不可能な全てのオブジェクトにとってサプライズになりうる」と補足した。その一方でコナシェンコフ報道官はロシアのS-300はあくまでも防衛システムであり、米MDとは異なり技術的には核兵器とのインテグレーションはできないと念を押している。

ここまでくると米政権がロシアの声を聞き入れてくれるよう期待するほかはない。今の兵器は限界まで自動化されてしまっている。例えばあのS-300が未確認飛行物体を撃墜してしまった場合、戦闘カリキュレーションにはミサイルの飛行プログラムやそれがどこの誰から飛ばされたものかを明らかにする時間はない。戦争を開始する理由となってしまったのは撃墜された飛行機よりもほんの些細な事件だ。スエズ危機、カリブ危機など世界はこれまでも冷戦期に核の世紀末の瀬戸際に立たされたことがあった。この時、状況を解決したのは2つの大国の指導者らの政治的意思だったのだ。

※なお記事の中で述べられている見解は、必ずしも編集部の方針とは一致していません。

<http://sptnkne.ws/cy4B>

英首相、議会での Brexit 討論に賛成

(スプートニク 2016 年 10 月 13 日 08:24)

© AP Photo/ Antonio Calanni <https://goo.gl/OigHVS>

英国議会はBrexit、つまり英国のEU離脱について討論することができるとし、テリーザ・メイ英首相は水曜日、議会での演説中に次のように述べた。

「議会が（Brexitについての）審議、討論、質問の可能性を持つことはないというアイデアは完全に間違っていた。」

以前メイ首相は、英国はEU離脱プロセスを来年3月末までに開始すると発表し、この問題に関する国民投票の再実施の可能性を否定した。

Brexitの条件に関する問題を議員たちの投票にかけることをメイ首相が望まないことは、政府と英国議会との間の政治的対立を引き起こし、その対立は勢いを増している。議会に討論を許すという決定がある程度の譲歩となったことは明らかだ。

<http://sptnkne.ws/cy4d>